

山形村埋蔵文化財調査年報

(平成9年度 国庫補助事業)

淀の内遺跡 第2次調査
中町立道西遺跡 第1次調査試掘
洞遺跡 第3次調査 (試掘)
下耕地遺跡 第2次調査 (試掘)

1 9 9 8

長野県山形村教育委員会

はじめに

村民憲章に謳われるように、山形村は豊かな自然と肥沃な大地に抱かれ、永い歴史と先人の英知によって築かれた教育と文化の伝統ある村であります。村内ではその恵まれた条件を生かした農作物が盛んに栽培される一方で、生活環境の近代化も土地利用計画に基づき、自然との調和を図りながら進められています。わたくしたちの生活を進歩させるうえで重要な開発も、時として今日の山形村を築き上げた先人達の生活が刻み込まれた遺跡の上にも及ぶことがあります。遺跡、埋蔵文化財の保護は歴史・文化の正しい理解に欠かすことのできないものであり、貴重な文化遺産を無造作に破壊することがあってはなりません。

本報告書は、平成9年度に国庫補助をうけて開発行為に先立ち実施された埋蔵文化財発掘調査の記録であります。我が村の歴史・文化の理解に少しでもお役に立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施及び報告書の作成にあたり、関係各位の御協力と御指導を賜りましたことに対し心から感謝申し上げます。

平成10年3月

山形村教育長 上 條 光 男

例 言

1 本報告書は、開発事業における事前の埋蔵文化財試掘確認調査及び、個人開発における事前の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2 発掘調査は山形村教育委員会において実施し、発掘作業・遺物整理にあたっては下記の方々のお力を得た。記して謝意を表す。(敬称略、50音順)

太田 義一 大塚 恭子 小野 邦美 小野 圭子 上條 忠昭 上條 信義
上條 賢憲 小林弥寿枝 直井由加里 中村 文夫 百瀬 時雄 八板 千佳

3 本書の執筆・編集は和田が行った。なお、現地調査及び出土遺物について下記の方々から有益な御教示、御指導を賜った。記して厚くお礼申し上げる次第である。(敬称略、順不同)

樋口 昇一 直井 雅尚 平林 彰 小口 達志 竹原 学 藤森 英二

目 次

はじめに	例 言	目 次	
淀の内遺跡 第2次調査		2
中町立道西遺跡 第1次調査試掘		23
洞遺跡 第3次調査(試掘)		26
下耕地遺跡 第2次調査(試掘)		27
写真図版			

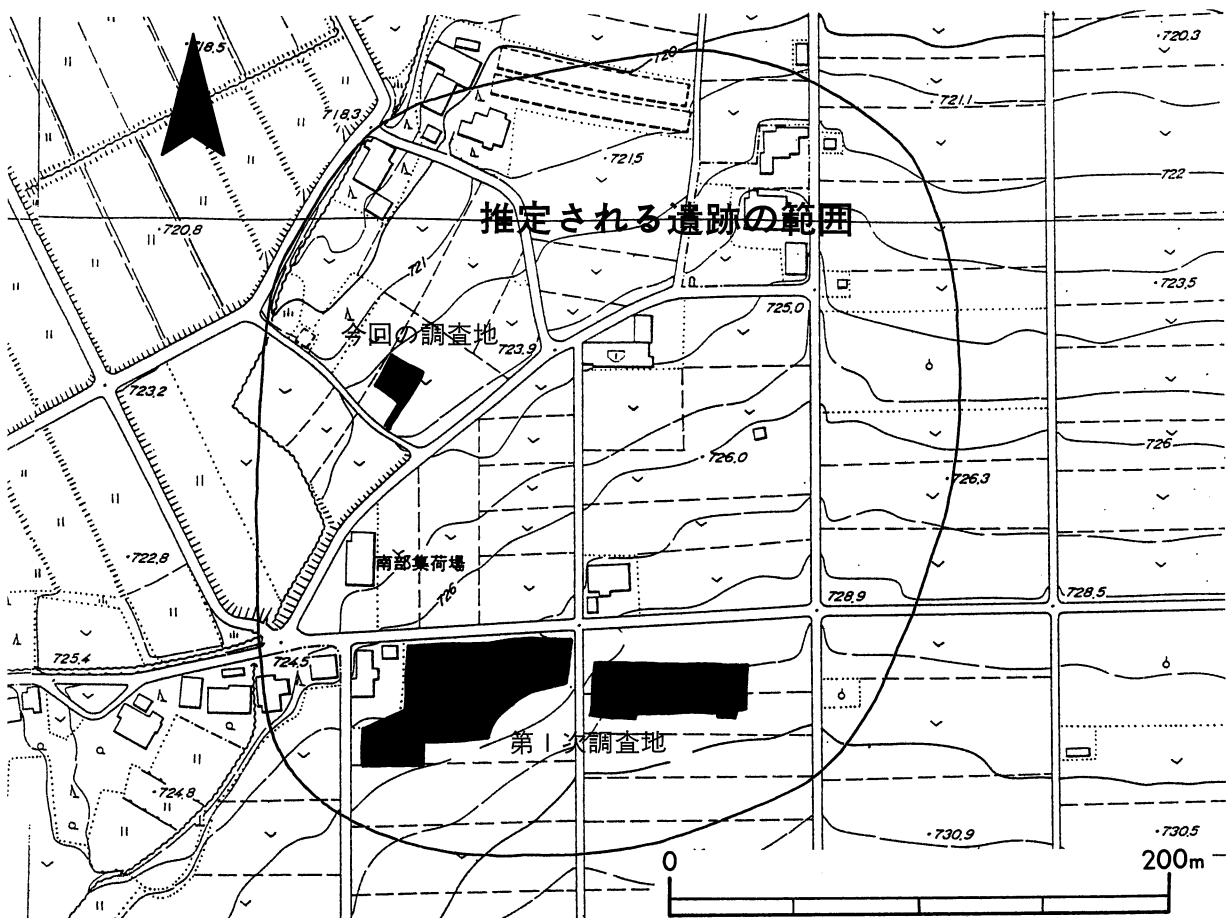
淀の内遺跡 第2次調査

対象地	長野県東筑摩郡山形村468-1
調査期間	平成9年9月1日～平成9年10月8日
開発対象面積	500m ²
発掘面積	280m ²
調査原因	個人宅地開発事業

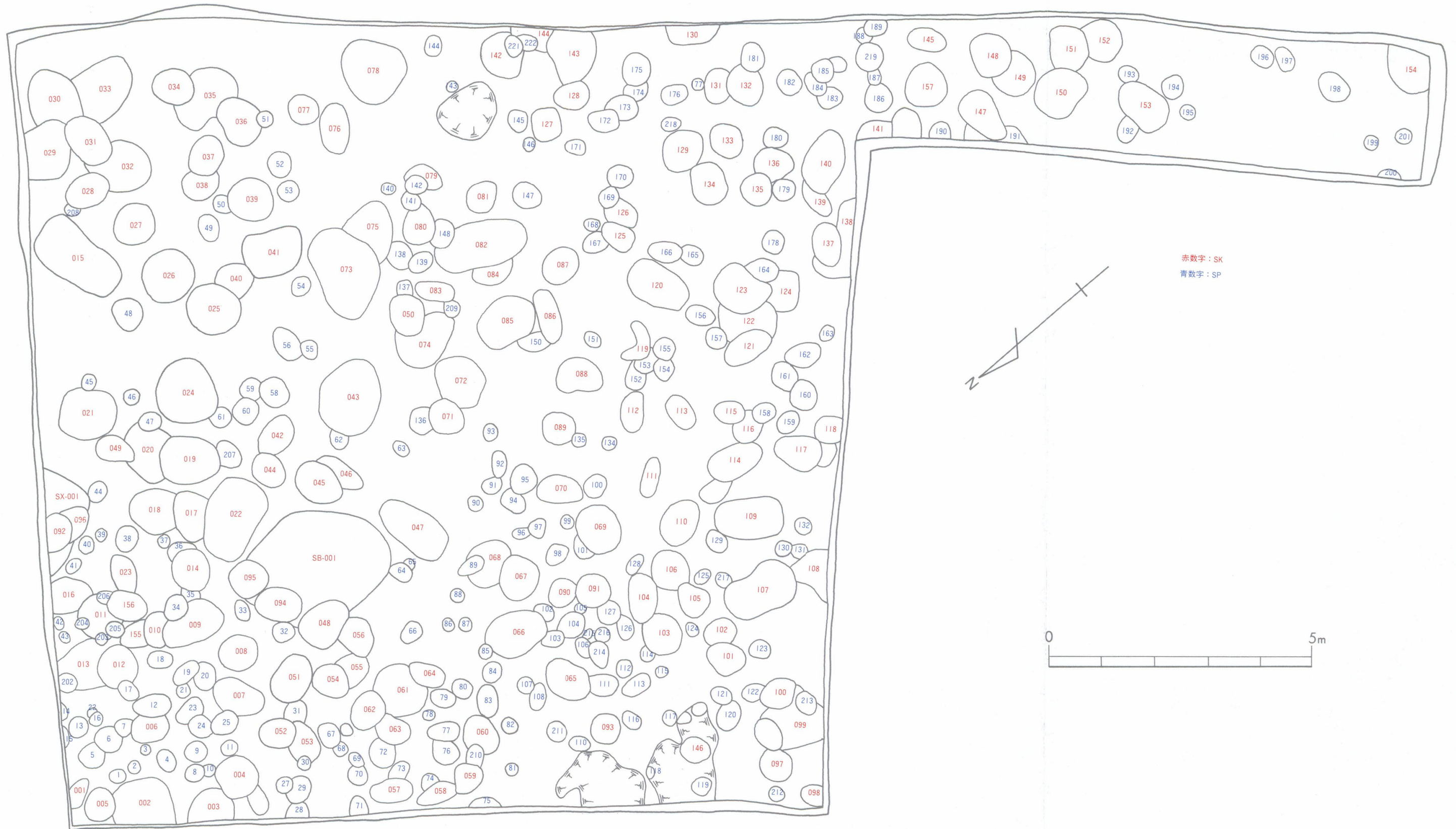
1 はじめに

上大池区洞地籍の湧水を源とする小河川沿いには、洞遺跡、下耕地遺跡、淀の内遺跡、野際遺跡など縄文時代中期の遺跡が知られている。その中でも本遺跡は、平成4年に住宅団地開発事業に伴う第1次調査によって縄文時代中期後半を主体とする環状集落跡であることが判明していた。

今回は第1次調査区から北へ100m程離れた畑地の一角で個人宅地開発が計画されたため、記録保存を目的とし、環状集落が北側へ広がっていることを推測して発掘調査を実施した。調査区は建物と上下水道管が埋設される予定地を覆う形で設定した。



第1図 淀の内遺跡全体図 (S=1/3,000)



第2図 淀の内遺跡第2次調査 遺構全体図 (S=1/60)

2 調査の結果

調査地は、約40cmの耕作土を除去すると次山のローム層に至る。表土除去は重機によってこのローム層の上面まで行い、人力によって遺構検出、掘り下げ作業を行った。また長芋が栽培されていたため、調査区の全域にわたって幅15cmの溝が1m間隔で掘られ攪乱されていた。なお、調査にあたっては煩雑になるためこの攪乱の掘削は行っておらず、遺構図に場所を記入するにとどめた。本報告書の遺構図には必要な部分についてのみ表現してある。

1) 検出された遺構

I 住居址

今回の調査区には、第1次調査で検出された環状集落の北側が及ぶのではないかと推測していたが、住居址は1件しか発見されず、環状集落の規模がやや狭まることが分かった。

① SB-001

調査区の北寄りに位置し、北側でSK-048・094・095に切られ、SP-064を切る。覆土は2層に分けることができたが、最深部でも15cm程しか残存しておらず遺存状態は良くない。床はローム層を掘り込みそのまま床面としているが、踏み締められた痕跡もなく軟弱である。炉は住居址の北東にやや寄って設置されている。細長の石を4つ組み合わせた1辺60cm余の方形石囲い炉であったと思われるが、南東の1石は攪乱によって残存していなかった。ピットは南側に6つ確認され、P1のみが深さ50cmと深いが、他は10cm前後と浅く上屋構造を推測することはできない。床面に接する形で曾利IV式の深鉢（第6図13）が出土しているが遺物の量は少ない。プランは不整楕円形で2.6m×2.2mを測るが、かなり小さな住居址の印象を受ける。

II 土壙・ピット

調査区の全域にわたって土壙157基、ピット221基が検出された。その大半は遺物の出土が見られないか小片であるため帰属時期の決定をできないが、出土した土器は縄文時代中期初頭のものが多く2、3を除いては縄文時代中期の範疇に入るため、おおむねがこの時期と思われる。報告書作成にあたっては、数が多いためすべてを図示・記述することは困難なため、埋設土器が見られたもの、礫の出土を見たもの等特徴的なもののみを抽出し、その他については一覧表に規模・形状・出土遺物・時期などを掲示することとした。また、検出された土壙・ピットの性格については、決定的な証拠を残すものが僅少であるため十分な分析にまで至ることができていない。以下いくつかの土壙について見ていきたい。

① SK-007

100cm×67cmをはかり、東側は2段に40cm余掘り込まれている。底から10cm前後浮いた位置から重なるような状況で土器（第6図1～3）・磨製石斧（第9図17）が出土したが、完形の土器はなく、総てが破片資料であるため投げ込まれた遺物と考えられる。時期は出土した土器から縄文中期中葉新道式期に帰属するものと考えられる。

② SK-011

123cm×107cm×14cmをはかり隅丸方形状を呈する。横倒しの形で中期初頭梨久保式I段階の深鉢（第

6 図 4) が出土した。土器の底部はSP-205に切られ残存していない。

③ SK-022

153cm×105cm×30cmで、北側は2段に5cm程掘り込まれている。中央部より拳大～人頭大の石が10個程、底に接する形でまとまって出土した。石の間からは土器片が5点(第6図9、第9図7～9)出土したが土壌の性格は分からない。中期初頭梨久保式に帰属するものと考えられる。

④ SK-031

98cm×69cm×50cmをはかり、楕円形状を呈する。西壁寄りに完形の浅鉢(第6図5)が逆位で出土した状況から見て甕被墓と考えられる。浅鉢内の土は黒色で、耳飾などの装飾品は見られなかった。また、浅鉢内面には朱の塗布が認められた。時期は縄文後期に帰属すると考えられる。

⑤ SK-035

調査区の東端に位置し、132cm×115cm×40cmをはかる。SK-034・036に切られてはいるものの、今回の調査で唯一明瞭な柱痕が認められた遺構である。柱痕の直径は35cm程度で、柱が抜き取られた痕跡は断面観察から認められなかったので柱の直径も同程度と思われる。また意識して掘り下げてはいないが、土器片(第9図12～16)は壁に寄った位置から出土したので、柱が立てられた時期は梨久保式を溯らないと考えられる。

⑥ SK-134

75cm×60cm×45cmをはかり楕円形状で、断面は袋状を呈する。覆土は6層に分けることができたが不自然な埋没状況で、2層はロームブロックが見られないのに対し、3層・4層を中心にロームブロックが見られ、人為的な埋め戻しがされた状況を伺える。また断面形状から、貯蔵穴としての機能が考えられるため、2層が貯蔵されたものと解釈して良いのだろうか。時期は出土土器から中期初頭梨久保式期と思われる。なお、袋状を呈する土壌としてSK-129・133がある。

⑦ SK-145

61cm×45cm×34cmをはかり、南東側が張り出す不整円形をなす。北西壁に沿う形で土器片(第7図16)が出土した。時期は梨久保式II段階のものである。

⑧ SK-150

103cm×90cm×16cmをはかり、南西隅に深さ15cmのピットを有す。土器の出土は見られなかったが、2つに割られた磨石が床面より4cm余浮いた状況で離れて出土した。覆土は単層でロームブロックが多く見られたため一度に埋め戻された状況を伺える。磨石を埋設した祭祀的土壌と思われる。

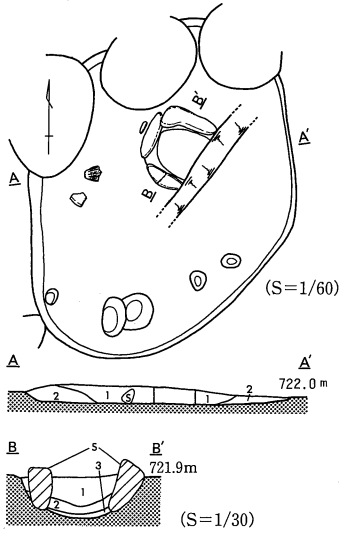
⑨ SP-064

直径40cm、深さ36cmをはかり、礫や土器片(第7図20)、磨製石斧(第9図18)が出土したが、完形品が見られないので礫と同時に投げ込まれた遺物と考えられる。なお、同じ状況を呈する遺構として、SP-100・165がある。

⑩ SP-073

調査区の西隅に位置し、51cm×37cm×35cmをはかる。深鉢(第7図17)を正位に埋設した遺構と考えられるが、SK-057に切られた際、口縁部を3/4程失っていた。時期は中期中葉藤内II式に帰属するものと思われる。

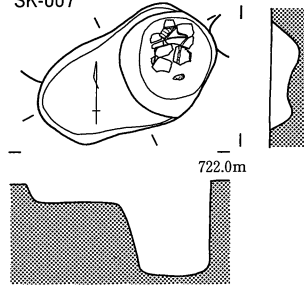
SB-001



SB-001

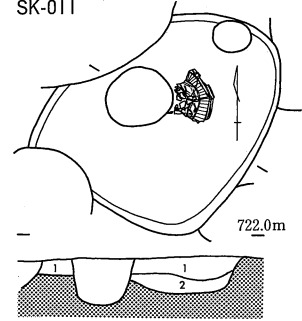
- 1: 10YR3/2 黒褐 縮まり・粘性あり 1cm程のロームブロック・炭少し含む
 - 2: 10YR3/3 暗褐 縮まり・粘性ややあり ローム粒・炭含む
- SB-001 炉
- 1: 10YR2/2 黒褐 縮まりややあり、粘性あり ローム粒・炭含む
 - 2: 10YR3/3 暗褐 縮まり・粘性なし 焼土粒含む
 - 3: 焼土

SK-007



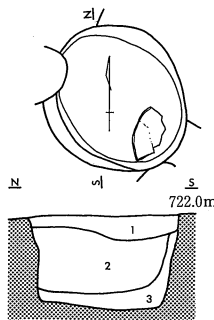
- 1: 10YR3/3 暗褐 縮まり・粘性なし 1cm程のロームブロック・炭含む

SK-011



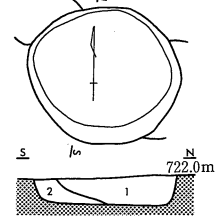
- 1: 10YR3/3 暗褐 縮まりなし、粘性ややあり 5mm程のロームブロック多く含む
- 2: 10YR4/3 にぶい黄褐 縮まりややあり、粘性あり 炭含む

SK-012



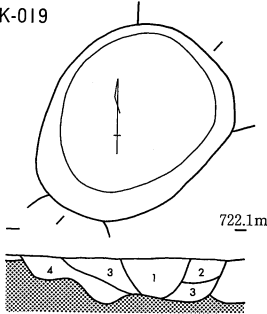
- 1: 10YR2/1 黒 縮まりあり、粘性ややあり 5mm程のロームブロック・炭含む 遺物はこの層に集中
- 2: 10YR3/2 黒褐 縮まり・粘性なし 0.5~2cm程のロームブロック多く・炭含む
- 3: 10YR3/1 黒褐 縮まり・粘性あり 0.5cm程のロームブロック・炭含む

SK-014



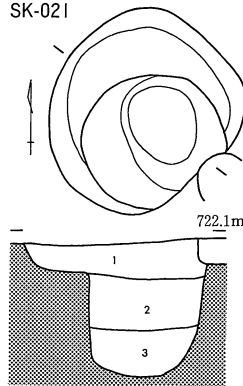
- 1: 7.5YR2/1 黒 縮まり・粘性あり 2~3mm程の炭多く含む
- 2: 10YR2/3 黒褐 縮まりなし ロームブロック含む

SK-019



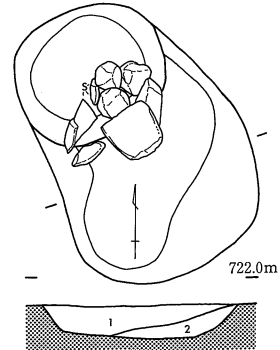
- 1: 10YR2/3 黒褐 縮まり・粘性あり 2mm程のローム粒少し含む 土器はこの層から
- 2: 10YR2/2 黒褐 縮まりあり、粘性ややあり 5mm程ロームブロック少し含む
- 3: 10YR2/2 黒褐 縮まり・粘性あり ローム粒微少に含む
- 4: 10YR2/2 黒褐 縮まりあり、粘性ややあり 5mm~1cm程のロームブロック多く含む

SK-021



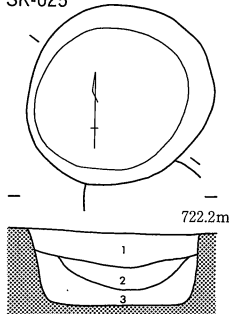
- 1: 10YR3/2 黒褐 縮まりややあり、粘性あり 5mm程のロームブロック・炭含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 縮まりややあり、粘性あり ロームブロックを1層より多く含む
- 3: 10YR3/2 黒褐 縮まりあり、粘性強 5mm~2cm程のロームブロック多く含む、炭含む

SK-022



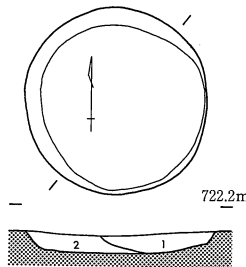
- 1: 10YR3/1 黒褐 縮まりあり、粘性ややあり 1cm程ロームブロック少し含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 縮まりあり、粘性ややあり 5mm程ロームブロック・炭少し含む

SK-025



- 1: 10YR3/3 暗褐 縮まり・粘性なしローム粒多く含む、炭含む
- 2: 10YR3/4 暗褐 縮まりなし 1cm程ロームブロック・ローム粒多く含む
- 3: 10YR3/4 暗褐 縮まり・粘性あり 1cm程ロームブロック・ローム粒多く含む

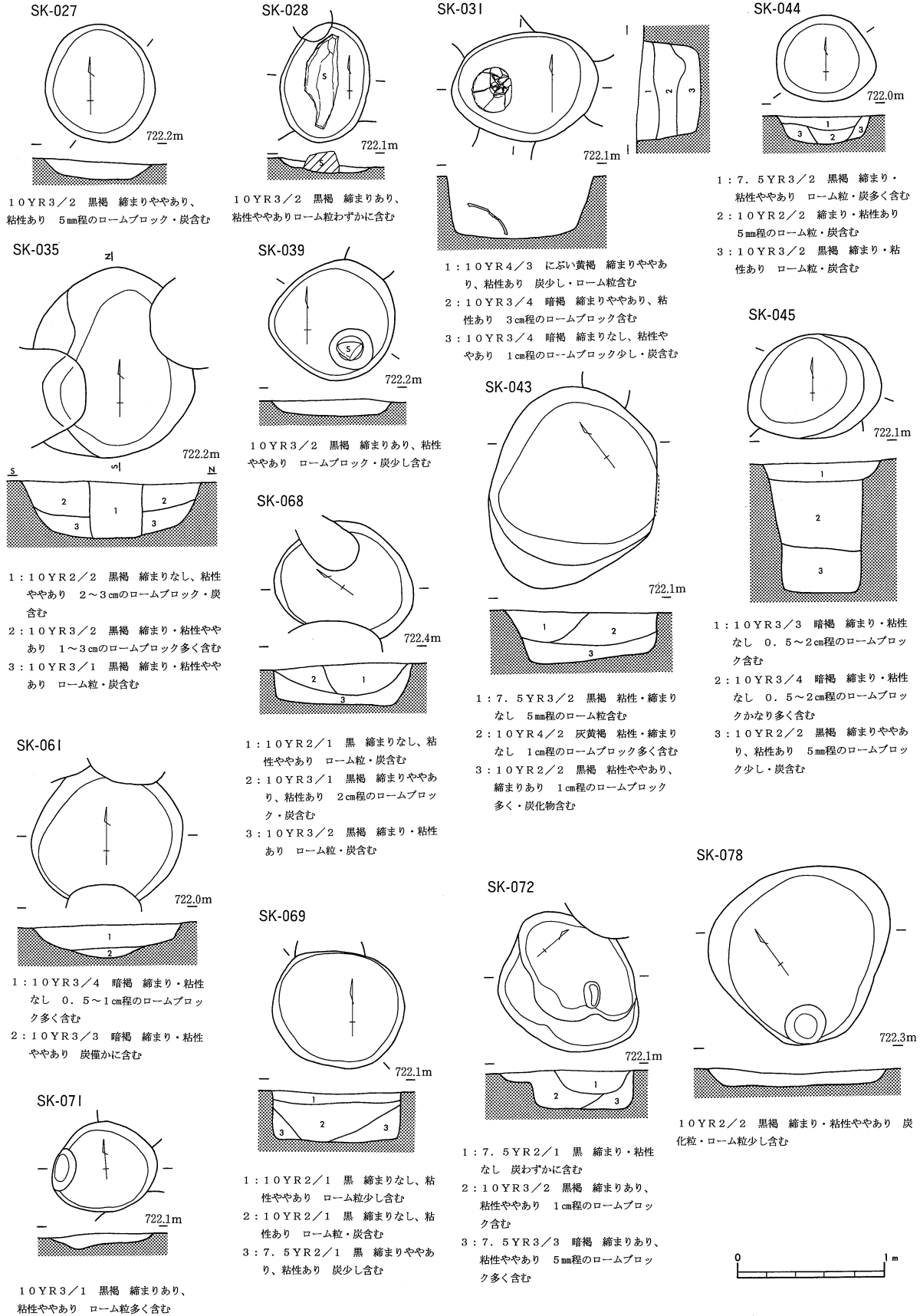
SK-026



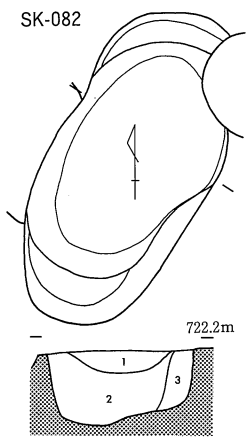
- 1: 10YR3/4 暗褐 5mm程ロームブロック少し含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 縮まりなし 炭少し含む



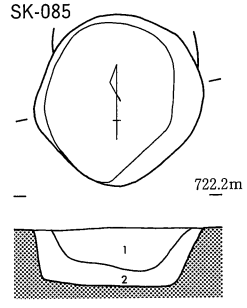
第3図 住居址・土壙 (1)



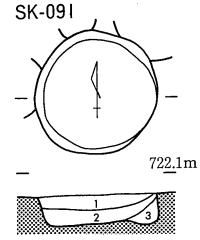
第4図 土 壙 (2)



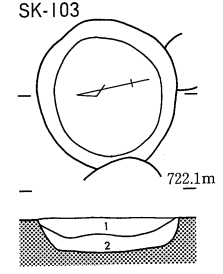
- 1: 10YR2/2 黒褐 縮まり・粘性やあり ローム粒僅かに含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 縮まり・粘性やあり ロームブロック含む 遺物はこの層に集中
- 3: 10YR3/2 黒褐 縮まり・粘性やあり ローム粒多く含む



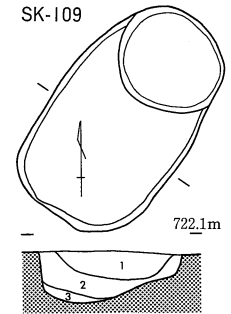
- 1: 10YR3/2 黒褐 縮まり・粘性やあり 5mm程のロームブロック・炭多く含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 縮まりあり、粘性やあり 1cm程のロームブロック含む



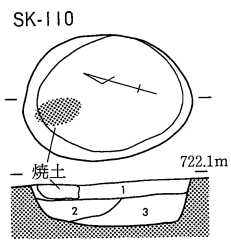
- 1: 10YR2/1 黒 縮まり・粘性なし ローム粒少し含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 縮まり・粘性なし 炭多量に含む
- 3: 10YR3/1 黒褐 縮まり・粘性やあり ローム粒多く含む



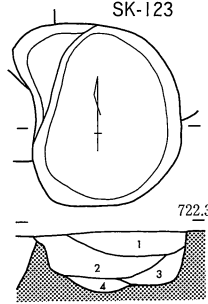
- 1: 10YR3/2 黒褐 縮まり・粘性なし 5mm程のロームブロック多く含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 縮まり・粘性なし 5mm程のロームブロック多く・炭僅かに含む 遺物はこの層に集中



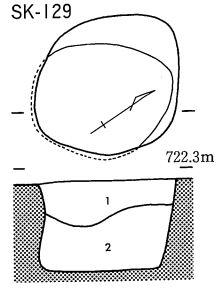
- 1: 10YR3/2 黒褐 縮まり・粘性やあり 2~3mmのローム粒・炭含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 縮まり・粘性あり 5mm程のローム粒含む
- 3: 10YR3/3 暗褐 ロームと黒褐色土の混合層



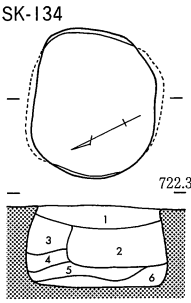
- 1: 10YR3/1 黒褐 縮まりあり、粘性やあり 2mm程のローム粒含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 縮まり・粘性やあり 2~3mmのローム粒含む
- 3: 10YR3/1 黒褐 縮まりやあり、粘性あり ローム粒・炭含む



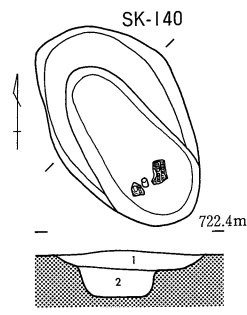
- 1: 10YR3/3 暗褐 縮まり・粘性なし ローム粒多く含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 縮まり強、粘性あり 5mm程のロームブロック・炭含む
- 3: 10YR3/4 暗褐 縮まり・粘性やあり ローム粒多く含む
- 4: 10YR2/2 黒褐 縮まり・粘性あり



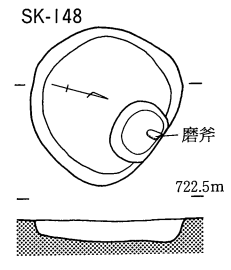
- 1: 7.5YR3/1 黒褐 縮まり・粘性やあり ローム粒少し含む
- 2: 10YR2/1 黒 縮まりあり、粘性やあり ローム粒・炭含む



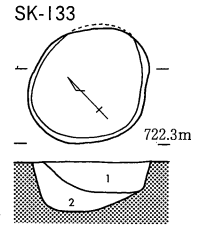
- 1: 7.5YR3/1 黒褐 縮まりあり、粘性やあり ローム粒僅かに含む
- 2: 10YR2/1 黒 縮まりなし、粘性やあり 炭含む
- 3: 10YR2/2 黒褐 縮まりなし、粘性やあり 1cm程のロームブロック含む
- 4: 10YR2/1 黒 縮まりなし、粘性あり 5mm程のロームブロック含む
- 5: 10YR3/4 暗褐 縮まり・粘性やあり ローム粒多く含む
- 6: 10YR1.7/1 黒 縮まりあり、粘性強 1cm程のロームブロック少し含む



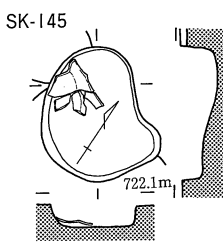
- 1: 10YR3/3 暗褐 縮まりなし、粘性やあり 3mm程のローム粒多く含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 縮まりあり、粘性やあり 3mm程のローム粒・炭含む



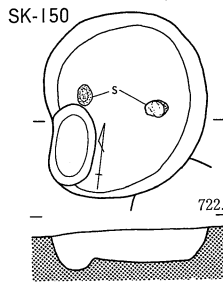
- 10YR3/2 黒褐 縮まりなし、粘性やあり 2~3cm程のロームブロック含む



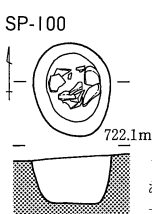
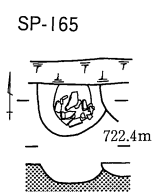
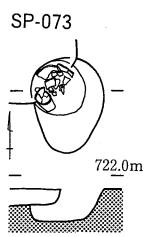
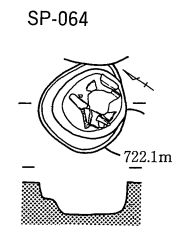
- 1: 10YR2/2 黒褐 縮まり・粘性やあり 2~3mmのローム粒・炭少し含む
- 2: 10YR2/1 黒 縮まりあり、粘性やあり ローム粒・炭含む



- 10YR2/2 黒褐 縮まりやあり、粘性あり ローム粒・炭・焼土粒含む



- 10YR3/1 黒褐 縮まりなし、粘性やあり 0.5~1cm程のロームブロック多く含む



第5図 土 壤 (3)

淀の内遺跡検出遺構一覧表

遺構番号	長径	短径	深さ	平面形状	断面形状	切りあい関係 (切るく、切られる)	報告書掲載遺物	時期
SK-001	59	35	26	楕円形	e		石3・5	不明
-002		115	29			>SK-005		不明
-003		84	21			<SK-004	8	曾利 I
-004	79	75	44	円形	e	<SP-188 >SK-003	拓1・2	梨久保 II
-005	65	57	43	円形	e	<SK-002		不明
-006	73		32			<SP-007 >SP-012		梨久保 I
-007	100	67	45	楕円形	e	>SP-020・025	1~3、石17	新道式
-008	74	67	44	円形	e			不明
-009	124	76	10	楕円形	a	<SK-010、SP-035 >SP-034		井戸尻 III
-010	64		28			<SK-155 >SK-009、SP-034		梨久保 II
-011	123	107	14	隅丸方形	a	<SK-013・016 >SK-156、SP-203・204・205・206	4	梨久保 I
-012	81	76	47	円形	d	<SK-013 >SP-017	30	弥生後期 (箱潜水式)
-013		91	14			>SK-011・012、SP-202・203		不明
-014	82	74	17	円形	a	<SP-035・036	拓3・4	梨久保 I
-015	176	109	20	楕円形	a			
-016		67	25			>SK-011		不明
-017	95		16			<SK-018 >SK-022		
-018	87	36				>SK-017		不明
-019	112	90	18	楕円形	a	<SK-020、SP-207		不明
-020		83	14			>SK-019・049、SP-047	拓5・6	梨久保 II
-021	105	82	68	楕円形	e	>SP-045	石20	不明
-022	153	105	30	不整形	e	<SK-017	9、拓7~9	梨久保
-023		47	32			>SK-156	拓10	不明
-024	121	113	36	円形	a	<SP-061		
-025	100	94	40	円形	c	<SK-040		
-026	101	98	13	円形	a			
-027	83	80	18	円形	a			梨久保
-028	84	62	10	楕円形	a	<SK-032 <>SP-208		不明
-029		108	27			<SK-030 >SK-031		
-030		94	23			<SK-033 >SK-031・029	石6	不明
-031	98	69	50	楕円形	c	<SK-029・030・032・033	5	後期前葉
-032		96	31			>SK-028・031	拓11	梨久保
-033		100	51			>SK-030・033		不明
-034	77	65	48	円形	e	<SK-035		不明
-035	132	115	40	円形	b	>SK-034・036	拓12~16	梨久保 I
-036	82	70	14	不整形	e	<SK-035 >SP-051		
-037	76	70	17	円形	a	<SK-038		
-038	74		14			>SK-037		
-039	80	80	22	円形	b	<SP-050	10	梨久保 I
-040		67	9			>SK-025・041		
-041	113	86	53	双円形	e	<SK-040		梨久保 II
-042	84	57	28	楕円形	e	>SK-044		不明
-043	142	114	35	楕円形	e	<SP-062	拓17	梨久保
-044	70	58	24	楕円形	a	<SK-042	石9	不明
-045	94	72	87	楕円形	f	<SK-046		梨久保 I
-046	99		10			>SK-045		
-047	143	71	26	楕円形	b		石4	不明
-048	98	77	17	楕円形	a	<SK-056 <>SB-001		不明
-049	72	48	26	楕円形	c	<SK-020		不明
-050	80	70	20	円形	a	<SK-074、SP-137		
-051	93	70	30	楕円形	a	<SP-031		不明
-052	68	54	26	楕円形	c	<SK-053、SP-031		梨久保 I
-053		58	20			<SP-031 >SK-052、SP-030		
-054	69	59	30	円形	e	<SK-055		不明
-055		61	16			>SK-054・056		
-056		60	9			<SK-055 >SK-048		不明
-057	82	47	17	楕円形	a	<SP-073		
-058	79	40	46	楕円形	c	<SP-074		不明
-059								
-060	76	67	34	円形	e	<SP-210		不明
-061	104	98	22	円形	a	>SK-062・063・064	拓18	梨久保
-062	77	59	19	楕円形	b	<SK-061・063		不明
-063		48	29			<SK-061、SP-072 >SK-062		藤内 I
-064	73	45	20	楕円形	b	<SK-061		不明
-065	95	65	32	楕円形	e	<SP-111	14	不明
-066	120	85	14	楕円形	a	<SP-102、>SP-085		不明
-067	85	75	14	円形	a	<SK-068		不明
-068	98		30			>SK-067、SP-089		不明
-069	92	85	38	円形	c	<SP-101	拓19・67	猪沢
-070	87	58	25	不整形	b			梨久保 II
-071	72	62	8	円形	b	<SK-072、SP-136	石15	不明
-072	95	90	33	円形	e	>SK-071	拓21~23	藤内 I
-073	175	113	45	双円形	b	<SK-075		不明
-074	127		35			>SK-050、<>SP-209		猪沢
-075		95	21			<SP-138 >SK-073		
-076	95	56	46	楕円形	c			
-077	63	55	18	円形	b			
-078	128	118	24	円形	b		拓20	前期末 (大蔵山式)
-079	74	45	9	楕円形	a	>SP-142	拓24	梨久保 II
-080		67	28	円形	a	<SP-148 >SP-141	11	藤内 I
-081	65	55	17	円形	a			
-082	180	83	6	楕円形	b	<SK-084 >SP-148	拓25~30	梨久保
-083	74	35	29	楕円形	e	<SP-209		
-084	86		10			>SP-082		
-085	115	90	38	楕円形	b	<SP-150		新道~藤内
-086	100	43	33	楕円形	a	<SP-150		
-087	73	61	15	円形	a			不明
-088	88	59	40	楕円形	e		拓31	梨久保
-089	64	60	22	円形	e	<SP-135		梨久保
-090	60	54	24	円形	c	>SK-091		
-091	65	65	18	円形	a	<SK-090、SP-105・127	拓32~34	梨久保
-092	70	71				<SK-096、SX-001		
-093	60	58	16	円形	b			
-094	83	64	62					不明
-095	68	65	37					不明
-096						<SX-001 >SK-092		

遺構番号	長径	短径	深さ	平面形状	断面形状	切りあい関係 (切る<、切られる>)	報告書掲載遺物	時期
SK-097	60	60	26	円形	e	>SK-145		不明
-098		40						
-099	134		43			>SK-100、SP-213		
-100	70	56	34	楕円形	e	<SK-099、SP-122	拓35	藤内I
-101	70	60	22	円形	a	<SK-102		狹沢
-102	60	50	37	楕円形	e	<SK-101		
-103	80	80	21	円形	a	<SP-114 >SK-104		狹沢
-104	95	55	15	楕円形	a	<SK-103		
-105	67	56	7	円形	b	<SK-106		
-106	75	71	29	円形	e	>SK-105		
-107	140	80	38	楕円形	b	<SK-108、SP-217	石10・19	不明
-108							拓36	梨久保
-109	133	76	52	楕円形	e	<SP-129	拓37・38	梨久保
-110	90	66	23	楕円形	a			不明
-111	78	30	8	楕円形	a			
-112	74	45	7	楕円形	a			
-113	65	40	39	楕円形	e			
-114	105	60	30	楕円形	b	<SP-133 >SK-116		井戸尻
-115	65	45	20	楕円形	b	<SK-116		
-116	63	50	39	楕円形	c	<SK-114 >SK-115、SP-158		
-117	93	70	19	楕円形	a	<SP-149		
-118	60		32			<SP-149		
-119						<SP-153		
-120	120	75	66	楕円形	e		15・拓39	新道
-121	95	50	19	楕円形	a	<SK-122		不明
-122	110					<SK-124 >SK-121・123、SP-157		
-123	105	90	25	円形	b	<SK-122・124		不明
-124	80		11			>SK-122・123、SP-164		梨久保
-125	65	44	22	楕円形	e	<SK-126、SP-167		
-126	65		27			>SK-125、SP-169		
-127	60	55	36	円形	c			
-128	67	50	39	楕円形	c			不明
-129	87	74	49	円形	c	<SK-134		不明
-130	103		16					
-131	65					<SP-177 >SK-132	12	井戸尻
-132		70	17			<SK-131 >SP-181		
-133	70	62	24	円形	c		拓40~42	梨久保
-134	75	60	45	楕円形	c		石11	梨久保II
-135	60	60	16	円形	a	<SK-136	6	藤内II
-136		64	23			<SP-180 >SK-135		
-137	85	55	17	楕円形	a	<SK-138、SP-169		
-138	145		23			>SK-137、SP-169		不明
-139		40	20			>SK-140		不明
-140	120	80	22	楕円形	b	<SK-139	7	藤内I
-141		34				>SK-143		
-142	92	81	13	円形	a	<SK-144、SP-189 >SP-190		不明
-143	110	80	27	楕円形	a	<SK-144 >SK-128		不明
-144			9			>SK-142・143、SP-189・190		
-145	61	45	34	楕円形	c	<SK-097・099	16・拓43	梨久保II
-146	60	50	75	楕円形	f			新道
-147	105	68	28	楕円形	a	<SP-191		
-148	85	80	23	円形	b	<SK-149	石16	不明
-149		85	19			>SK-148		不明
-150	103	90	30	円形	b	<SK-151		不明
-151	85	85	9	円形	a	<SK-152 >SK-150		不明
-152	78	78	25	円形	b	>SK-151		不明
-153	103	69	26	楕円形	a	<SP-192・193		不明
-154	110	78	75	楕円形	e		石13・拓44~48	梨久保
-155		49	28			>SK-010、SP-205		
-156	75	55	29	楕円形		<SK-011・023、SP-206		
-157	85	80	20	円形	b			
SP-001	30	28	27					梨久保
-002	26	23	30					
-003	20	20	12					
-004	42	35	23					不明
-005	47	46	19			>SP-006		
-006		46	29			<SP-005 >SP-007	拓49	前期末 (北陸系)
-007	46	30	25			<SP-006 >SK-006		
-008	37	34	20			<SP-010		
-009	47	40	18					不明
-010		24	13			>SP-008		
-011	35	20	28					
-012	70	44	20			<SK-006		不明
-013	40	34	41					
-014								
-015								
-016	28					<>SP-022		
-017	35	30	30			<SK-012	石7	不明
-018	47	31	35					
-019	57	32	27			<SP-020・021		
-020	53		19			<SK-007 >SP-019		
-021		25	9			>SP-019		
-022								
-023	59		21			>SP-024		
-024	45	40	16			<SP-023 >SP-025		
-025	55	41	8			<SK-007、SP-024		
-026								
-027	30	30	17			<SP-029		
-028		43	19			>SP-029	23	藤内I
-029	54		7			<SP-028 >SP-027		
-030	27	25	6			<SK-053		
-031		42	21			>SK-051・052・053		
-032	38	37	36				石1	不明
-033	42	27	22					
-034	50	44	13			<SK-009・010、SP-035		
-035		36	6			>SK-009・014、SP-034		
-036			17			>SK-014		
-037	25	23	16					

遺構番号	長径	短径	深さ	平面形状	断面形状	切りあい関係(切るく、切られる)	報告書掲載遺物	時期
SP-038	50	40	16				石 2	藤内 I
-039	24	23	20					
-040	35	28	28					
-041	32	22	10					
-042	26	11	18					
-043	24	18	12					
-044	41	32	38			>SX-001		不明
-045	33	29	12			<SK-021		
-046	30	30	25					
-047	43	34	28			<SK-020		
-048	60	54	46					
-049	50	37	19					
-050		36	13			>SK-039		
-051	34	30	22			<SK-036		
-052	47	47	26					
-053	40	38	31				拓 5 0	藤内 I
-054	40	34	22					
-055	37	32	21			<SP-056		
-056	70	49	22			>SP-055		不明
-057								
-058	59	50	30			<SP-059	1 8	藤内 I
-059	42	41	43			>SP-058-060		
-060	51	47	32			<SP-059		不明
-061	45		24			>SK-024		
-062		34				>SK-043		不明
-063	33	25	17					
-064	46	35	36			<SP-065 >SB-001	2 0、石 1 8	猪沢
-065		23	10			>SP-064		
-066	46	33	33					
-067	50	40	12			<SP-068		梨久保
-068	30	28	16			>SP-067	2 1	藤内 I
-069	33	25	8			<SP-070		
-070		37	24			>SP-069		
-071		35	35					
-072	57	48				>SK-063		不明
-073	51	37	35			>SK-057	1 7	藤内 II
-074		32				>SK-058		
-075			15					不明
-076	57	45	31			>SP-077	1 9	藤内 I
-077	60	36	22			<SP-076		藤内 I
-078	24	19	14					
-079	50	35	13					梨久保 II
-080	37	35	27					不明
-081	28	24	18					不明
-082	32	29	25					不明
-083	61	40	20					
-084	42	35	20					藤内 I
-085	28	27	8			<SK-066		
-086	27	22	25				2 2	猪沢
-087	25	23	22					
-088	27	25	11					
-089	54	30	33			<SK-068	石 1 2、拓 5 1	藤内 I
-090	30	28	20					
-091	42	30	9			>SP-092		
-092	53	30	13			<SP-091		不明
-093	30	27	33				拓 5 2	不明
-094	50	38	20			>SP-095		
-095	58	51	19			<SP-094	拓 5 3	不明
-096		21	21			>SP-097		
-097	37	33	12			<SP-096		
-098	50	40	27					
-099	29	24	8					
-100	50	40	29				2 4 ~ 2 6	新道
-101			10			>SK-069		
-102	39	30	6			>SK-066		
-103	43	33	8			<SP-104 >SK-066		
-104	50	43	25			<SP-105 >SP-103		不明
-105		20	20			>SK-091、SP-104		
-106	45	28	10			>SP-214		
-107	36	34	12			<SP-108		
-108	54	33	7			>SP-107		
-109								
-110	41	30	24					
-111		40	25			>SK-065		
-112	33	31	17					
-113	57	34	31					
-114		28	18			>SK-103		
-115	25	20	12					
-116	38	28	21					
-117	30	27	24			>SP-186		
-118	24	16	55					不明
-119	40	32	41				2 7	曾利 I
-120	59	45				>SP-121		不明
-121	43	32	26			<SP-120		
-122		35	20			>SK-100		
-123	40	37	28					不明
-124	27	21	18					
-125	36	23	21					
-126	44	32	14			>SP-127		
-127		44	22			<SP-126 >SK-091		
-128	42	25	9					
-129	50	35	10			>SK-109		
-130								
-131		27	18			>SP-136		
-132	34	32	16					
-133		40	24					
-134	30	28	32					
-135	30	28	9			<SK-089	拓 5 4	梨久保 II

遺構番号	長径	短径	深さ	平面形状	断面形状	切りあい関係(切るく、切られる)	報告書掲載遺物	時期
SP-136	35	34	18			<SP-131		
-137		32				>SK-050		
-138	52	47	8			>SK-075, SP-139		
-139	46	36	14			<SP-138		
-140	30	26	22					
-141	40		10			<SK-080 >SP-142		
-142	42	40				<SK-079, SP-141		
-143	20	18	3					
-144	40	32	16					
-145	43	36	25					
-146	28	25	13					
-147	56	50	25				拓56	藤内I
-148	47		42			<SK-082 >SK-080		
-149						>SK-117・118		
-150								
-151	35	25	20					
-152		40	24			<SK-119, SP-153		
-153			2			<SP-152 >SK-119, SP-154・155		
-154		39				<SP-153 >SP-155		不明
-155	42	42	20			<SP-153・154		
-156	56	38	24					不明
-157	43	36	20			<SK-122		
-158	44	36	20			<SK-116		
-159	45	39	13					不明
-160	58	53	15			<SP-161		
-161	57	50	11			<SP-162 SP-160		
-162	71	48	7			>SP-161		
-163	34	25	8					
-164		45	29			<SK-124 >SK-123		不明
-165		35	24			>SP-166	拓55・57・58	梨久保II
-166	64	40	16			<SP-165		不明
-167		38	21			>SK-125		
-168	32	26	19					
-169	40	35	17			<SK-126		
-170	48	47	11					不明
-171	40	29	10					不明
-172	58	42	32			<SP-173		
-173		50	19			<SP-174 >SP-172		
-174		37	27			>SP-173・175		
-175	65	54	20			<SP-174	28、拓59・60	暗ヶ峯
-176	48	40	12					
-177	23	22	15			>SK-131		不明
-178	46	44	37					
-179	41	39	21					
-180	46	36	29			>SK-136		
-181	56	45	13			>SK-132		不明
-182	47	43	15					不明
-183	47		32			>SP-184		不明
-184	47	40	17			<SP-183 >SP-185	拓61	梨久保II
-185	61	37	20					
-186	31	22	40			<SP-117		不明
-187	32	28	15				石8	不明
-188						>SK-142, SP-189		不明
-189			17			<SP-188		不明
-190		42						
-191			22					
-192		40	24			>SK-133		
-193		46	32			>SK-133		
-194	46	42	18					不明
-195	29	28	21					梨久保
-196	46	38	24					梨久保
-197	49	34						不明
-198	64	48	6					
-199	27	27	6					
-200			8					
-201	28	28	4					
-202	37	32				<SK-013		
-203	21	18	18			<SK-011・013		
-204	23	23	17			<SK-011		
-205	45	30	26			<SK-011・115		
-206		25	31			<SK-011 >SK-156		
-207	56		17			>SK-019		
-208	28	27	28			<>SK-028		
-209		29	7			>SK-074・083		
-210		34	31					
-211	40	38	22					
-212	30	26	23					
-213	46	32	16			<SK-099		
-214	50	39	27			<SP-106		
-215	22	16	14					
-216	31	28	19					
-217		28				>SK-107		
-218	35	28	17					
-219	31	29	21					
-220	52	48	42			<SP-221		
-221		24	10			>SK-142, SP-220		
SX-001	200		20			<SP-004 >SK-092・096	拓62・63	梨久保
SB-001	261	215	15			<>SK-048・094・095 <SP-064	13、石14、拓64	曾利IV

一 凡 例 一

- ・SK(土曜)、SP(ピット)、SX(不明)の区別は現場で見た目の判断をしており、厳密な区別ではない。また、平面形状と断面形状上の分類はSK(土曜)のみ行った。分類は阿久遺跡(『長野県中央道埋蔵文化財発掘調査報告書』原村その5)を参考にした。
- ・平面形状 - 円形(短径と長径の比が1:1.2以下)、楕円形(短径と長径の比が1:1.2以上)、双円形(円形が2つ繋がった形)、隅丸方形、不整形
- ・断面形状 - a. 深さと長径の比が1:3以上で、浅く断面形状が方形又は逆台形のもの。 b. 深さと長径の比が1:3以上で、断面が丸みを持つ等a以外のもの。 c. 深さと長径の比が1:3~1:1で、断面形状が方形又は逆台形のもの。 d. 深さと長径の比が1:3~1:1で、断面が丸みを持つ等c以外のもの。 e. 深さと長径の比が1:3~1:1で、底が2段のものやピットを持つもの。 f. 深さと長径の比が1:1以下で、断面形状が方形又は逆台形のもの。 g. 深さと長径の比が1:1以下で、断面形状がf以外のもの。
- ・時 期 - 出土した土器で判断しているため、正確な遺構の時期を示していないものもある。空欄は遺物の出土なし、不明は時期を判断する遺物がなかったものである。

2) 出土遺物

I 土器 (第6、7、9～11図)

今回の調査では整理用コンテナ8箱分の土器が出土している。その時期は縄文時代前期末～後期、弥生時代後期の遺物が出土しているが、そのおおくは縄文時代中期初頭のものである。以下、時期毎に見ていきたい。

① 縄文時代前期末

3片の出土で数は少ない。拓59は半裁竹管による沈線区画結節文が渦巻状に施文されたものである。拓20は縄文地文の上に結節浮線文と素浮線文が貼付されたもので、胎土は外見上在地のものと変わらないが、畿内の大歳山式に類似する。また拓55は、口縁部に肥厚帯を設けその上を指頭押し、それ以下は縄文が施文される。口縁部に肥厚帯が設けられる土器はその下側に三角印刻文を入れるものが多く見られるが、やや様相が異なる。一応前期末に位置づけた。

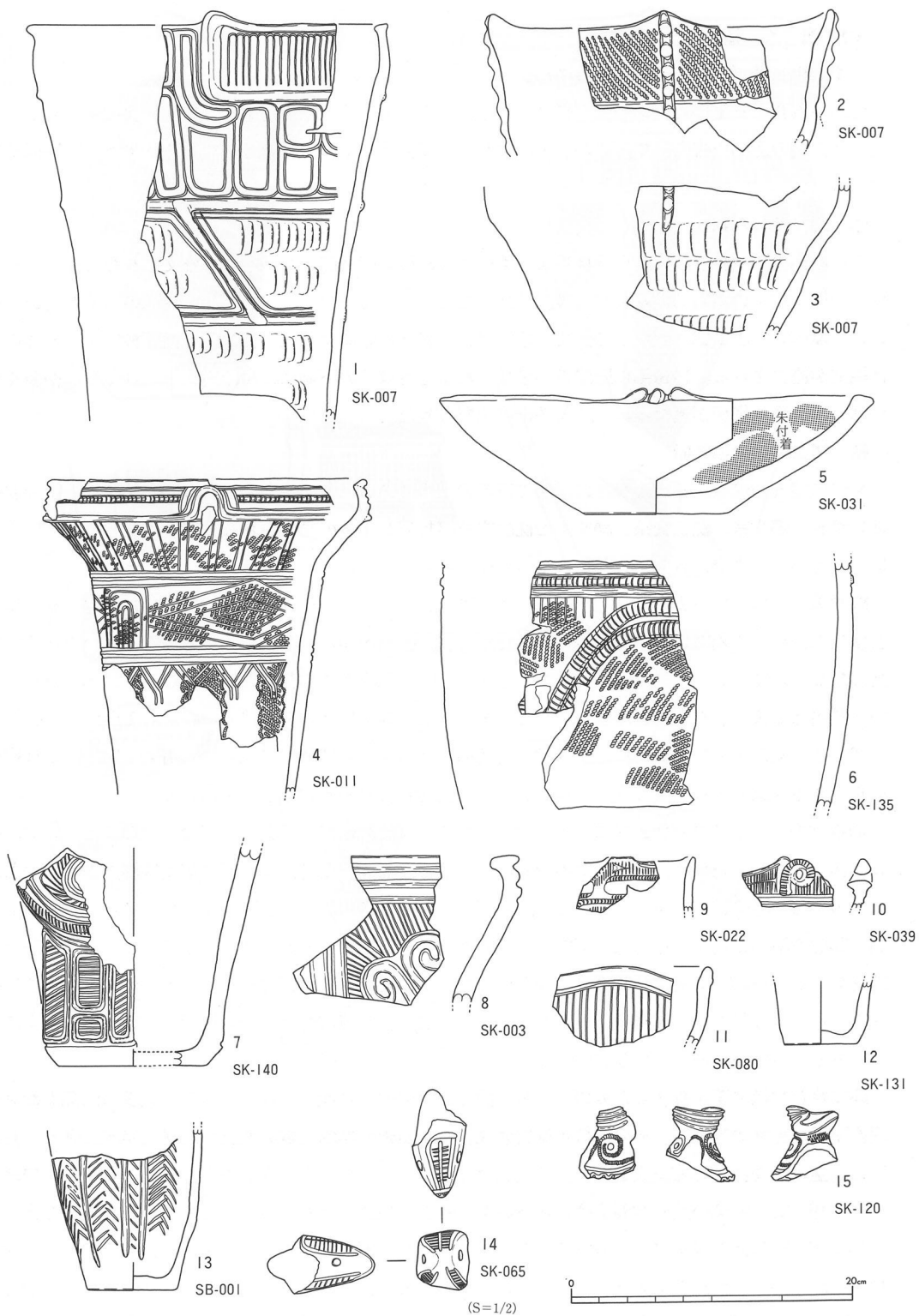
② 縄文時代中期初頭

今回の調査で最も多く出土したのがこの時期の土器である。この時期の土器は三上徹也氏の研究成果に基づき、縄文系、沈線文系、縄文系と沈線文系が折衷したものに分類され、時間差としてI・II段階に分けている。また、外来系と思われるのも僅かに存在するので、これは別に見ていきたい。

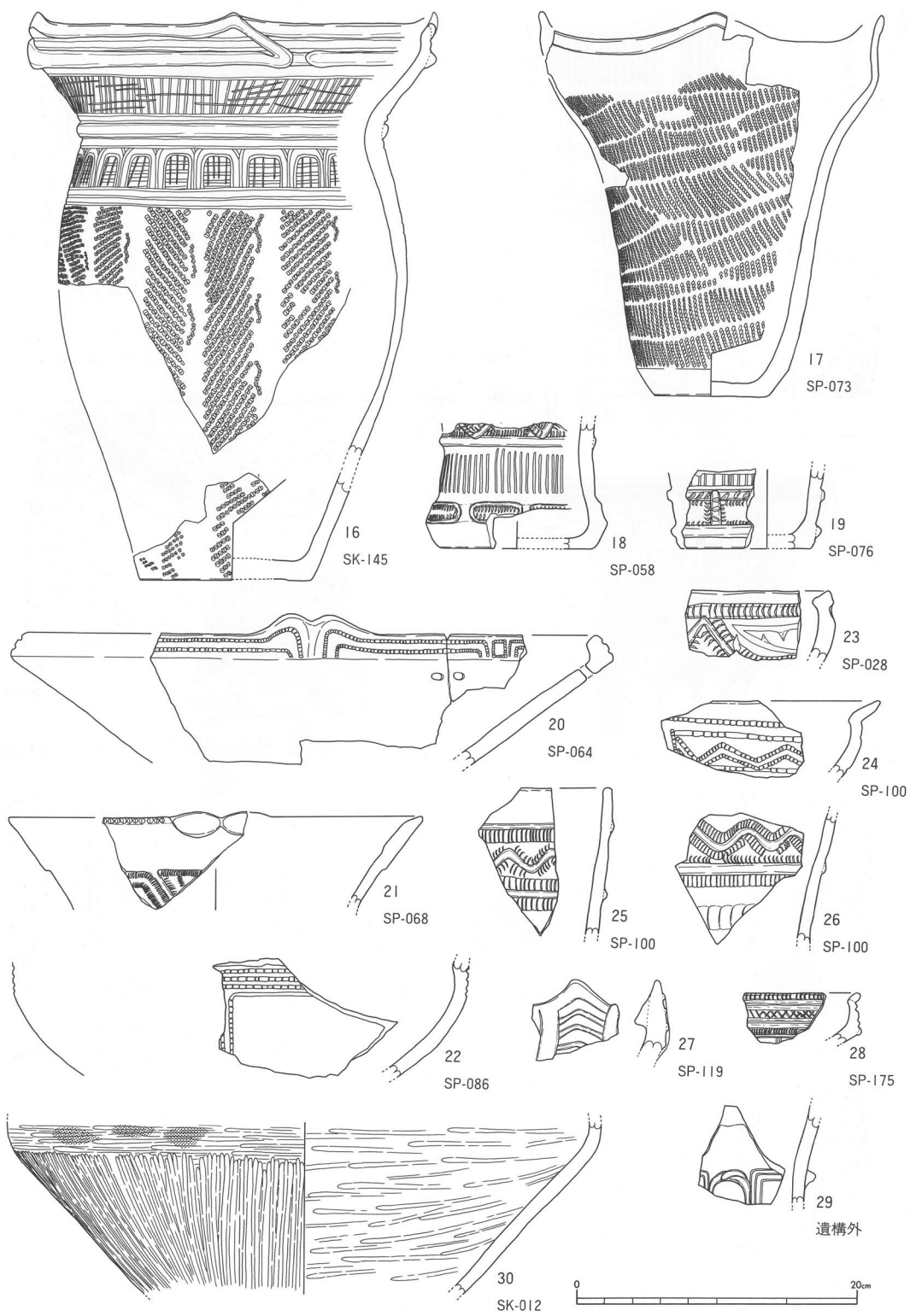
縄文系 いわゆる細線文系と呼ぶ土器で、第6図9・10、拓62はまさしく口縁部に細線文をもつ。また口縁部が縄文施文のものとして拓1・15がある。拓16・43は胴部の破片で空白部を持つ結節羽状縄文が施文されている。これに対し、拓2・6・24・30も縄文施文の胴部破片であるが空白部がみられない。前者はI段階、後者はII段階とされている。拓32・44には「Y」字状文が見られI段階の特徴とされている。拓54・61には縄文地文に半裁竹管沈線による「B」字状文が見られ、拓57・58・63には縦位に垂下する隆線文・沈線文と縄文が見られるが、両者ともII段階になるとと思われる。

沈線文系 半裁竹管状工具による沈線文を特徴とするもので、縄文施文がないものを扱う。28、拓5・25・29・33・45は「く」字状に内折する口縁部の破片で、口唇部は爪形文が連続施文され、屈曲部までの間には格子目文が見られる。この屈曲部から頸部までに該当する破片は拓12・26・34・46であるが、間隔を置いた縦位平行沈線(拓34)と間隔を持たない(拓12・26・46)ものがある。なお拓12は沈線文の上から円形の刺突がされており前期末の文様要素が伺える。頸部以下胴部のもので縦位沈線施文の拓4、幾何学的文様が見られる拓11、「∩」状に区画されたもの(拓28・39・41)、格子目文の見られるもの(拓18・48・60)などがある。

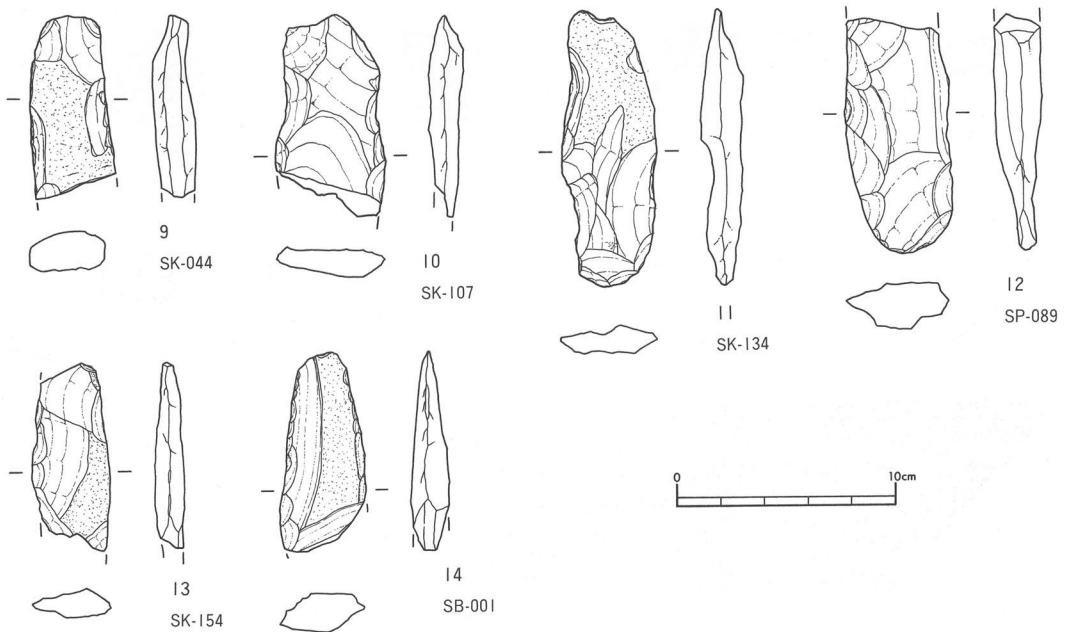
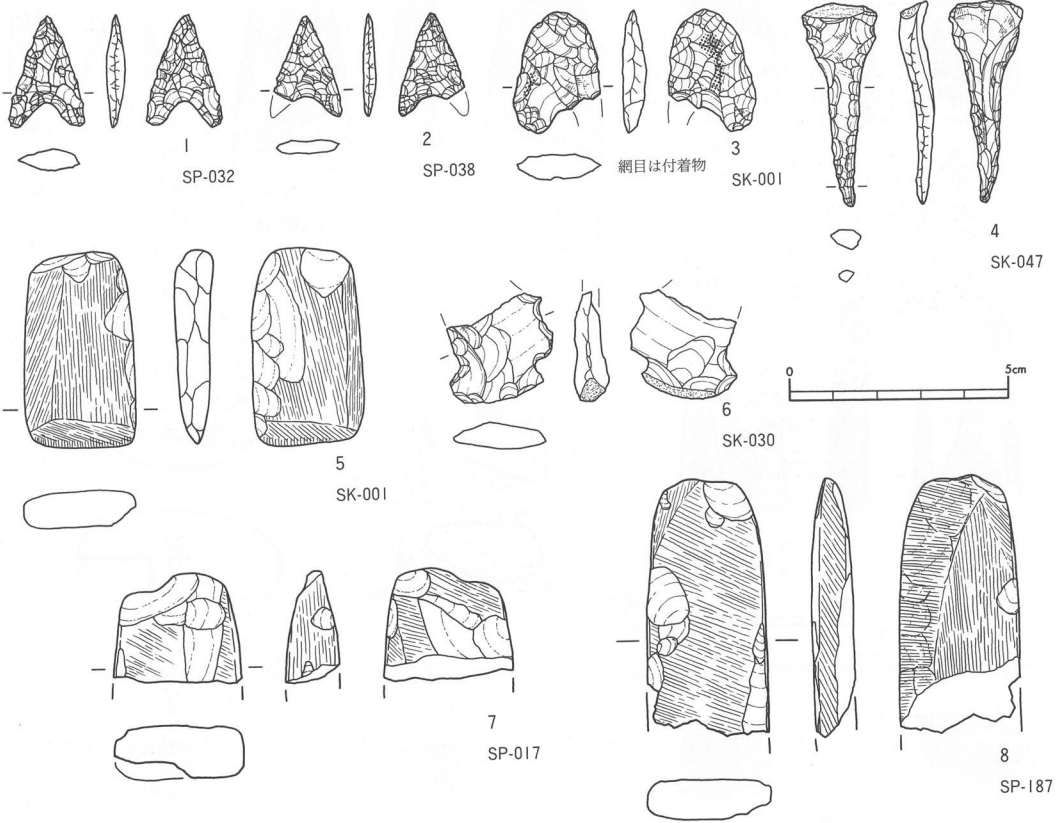
縄文系と沈線文系が折衷したもの 第6図4は器形的には沈線文系であるが、頸部の間隔をおいた縦位平行沈線文の地文と、その下の半裁竹管沈線による幾何学的文様の地文に斜縄文が施文され、更には空白部を持つ結節縄文と「Y」字状文が見られ、明らかに両要素が折衷している。また、口縁部の瓦状押し文、胴部の幾何学的文様に渦巻状モチーフが崩れたと考えられるものが使われている点、古い要素が残存したと考えてよいのだろうか。なお、この資料と同じく頸部に間隔をおいた平行沈線文の地文に縄文が施文されるものとして拓13・14・17がある。第7図16は、器形と口縁部から頸部までの文様は沈線文系II段階であるが、頸部以下は結節を伴う $LR\left\{ \begin{matrix} R \\ L \end{matrix} \right\}$ の縄文が縦位に空白部をもつ形で施文されており縄文系I段階の様相を呈す。この資料のように胴部の縄文に反摺の原体が見られるものとして



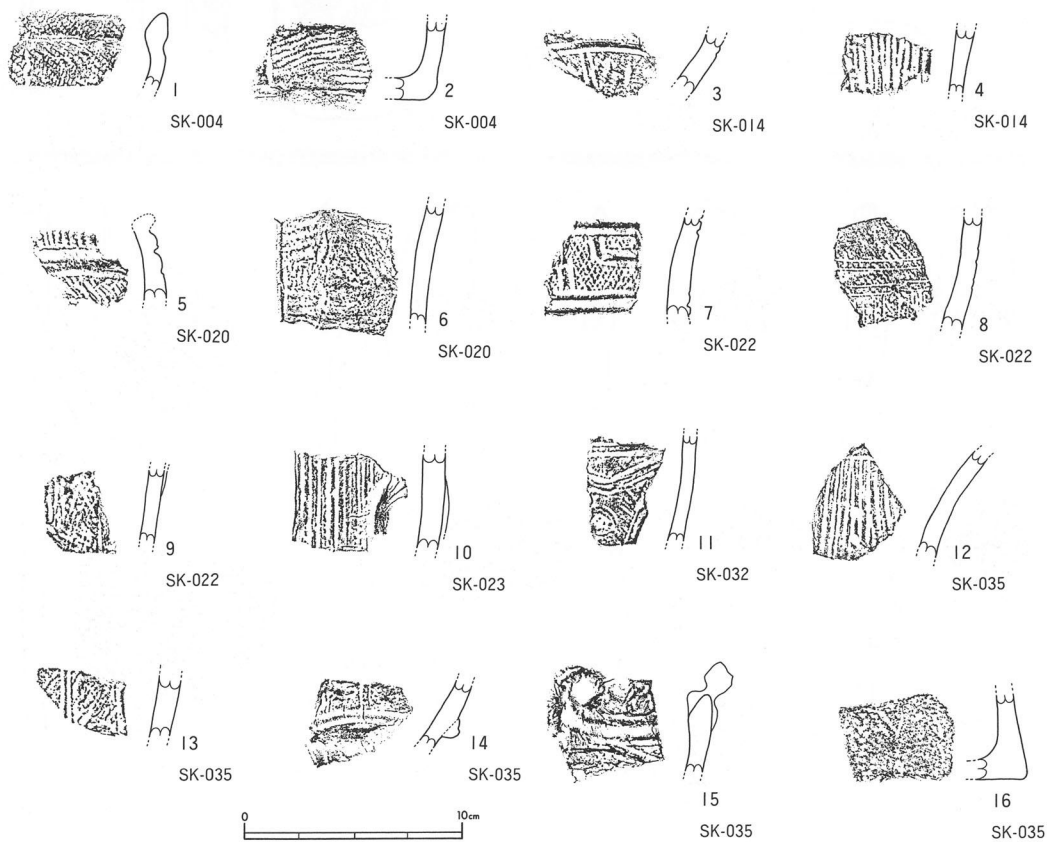
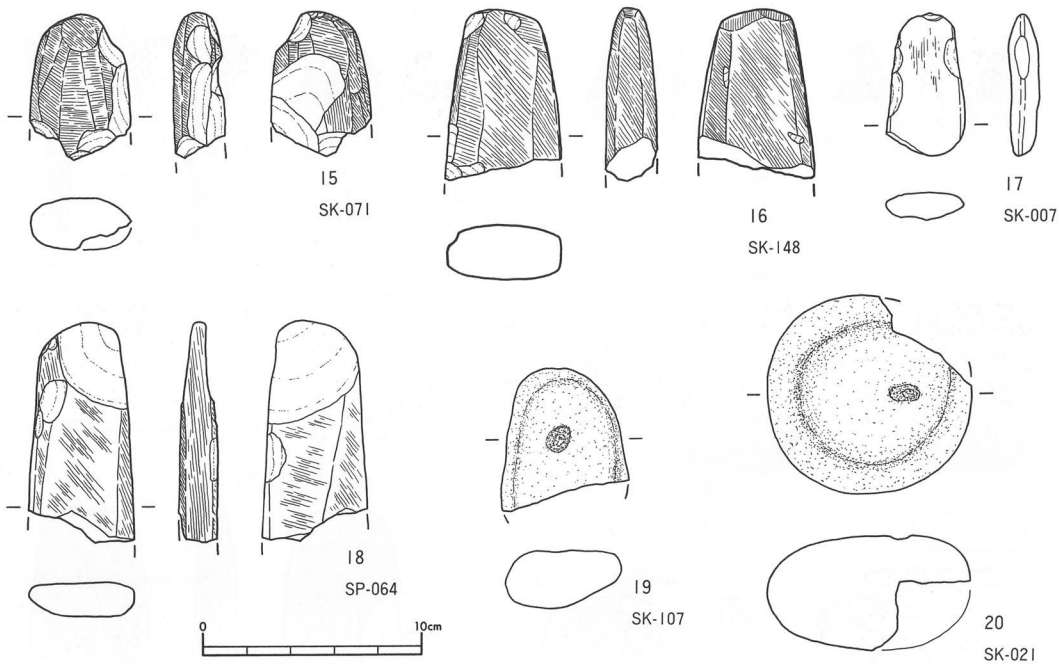
第6図 出土土器実測図(1)



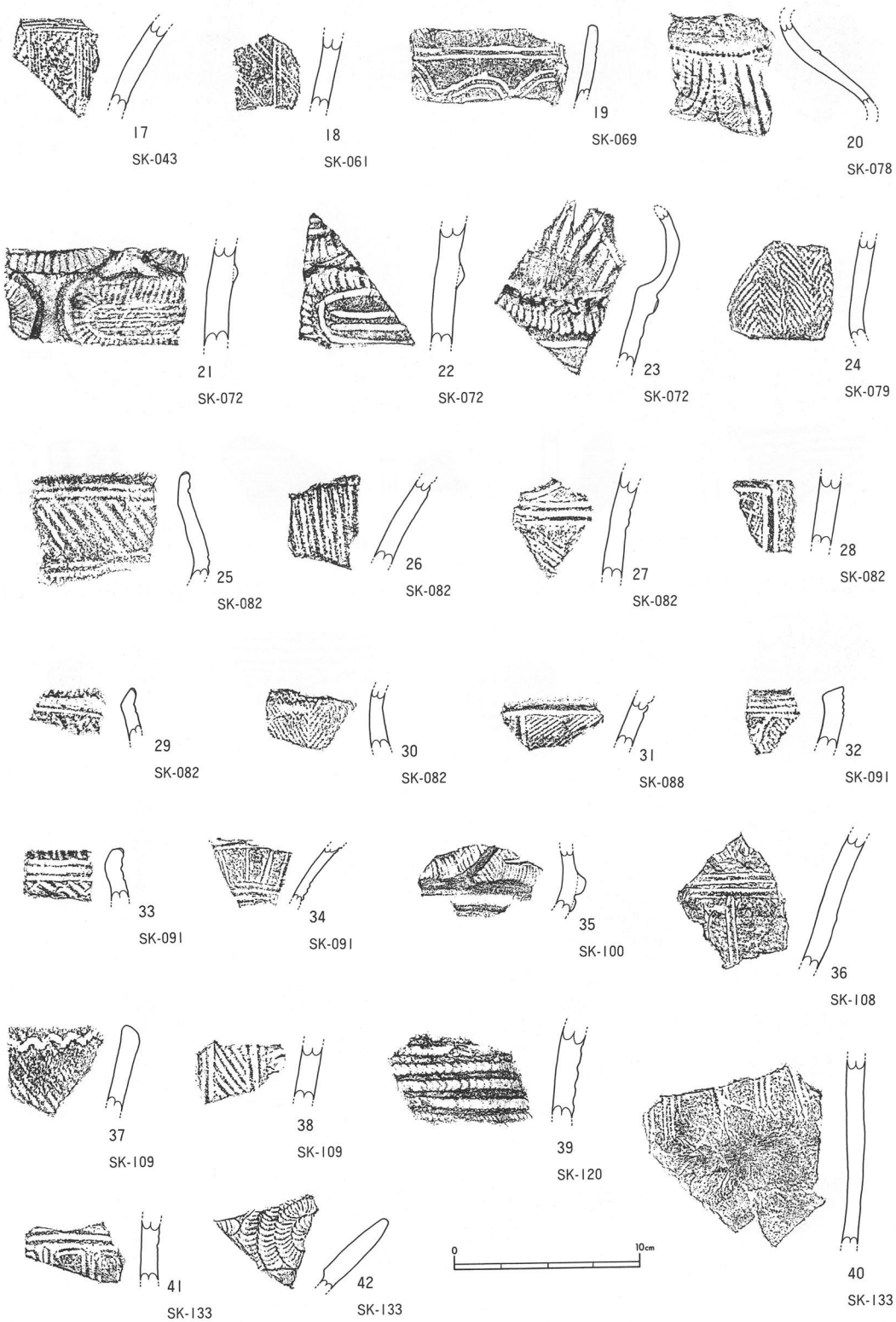
第7図 出土土器実測図(2)



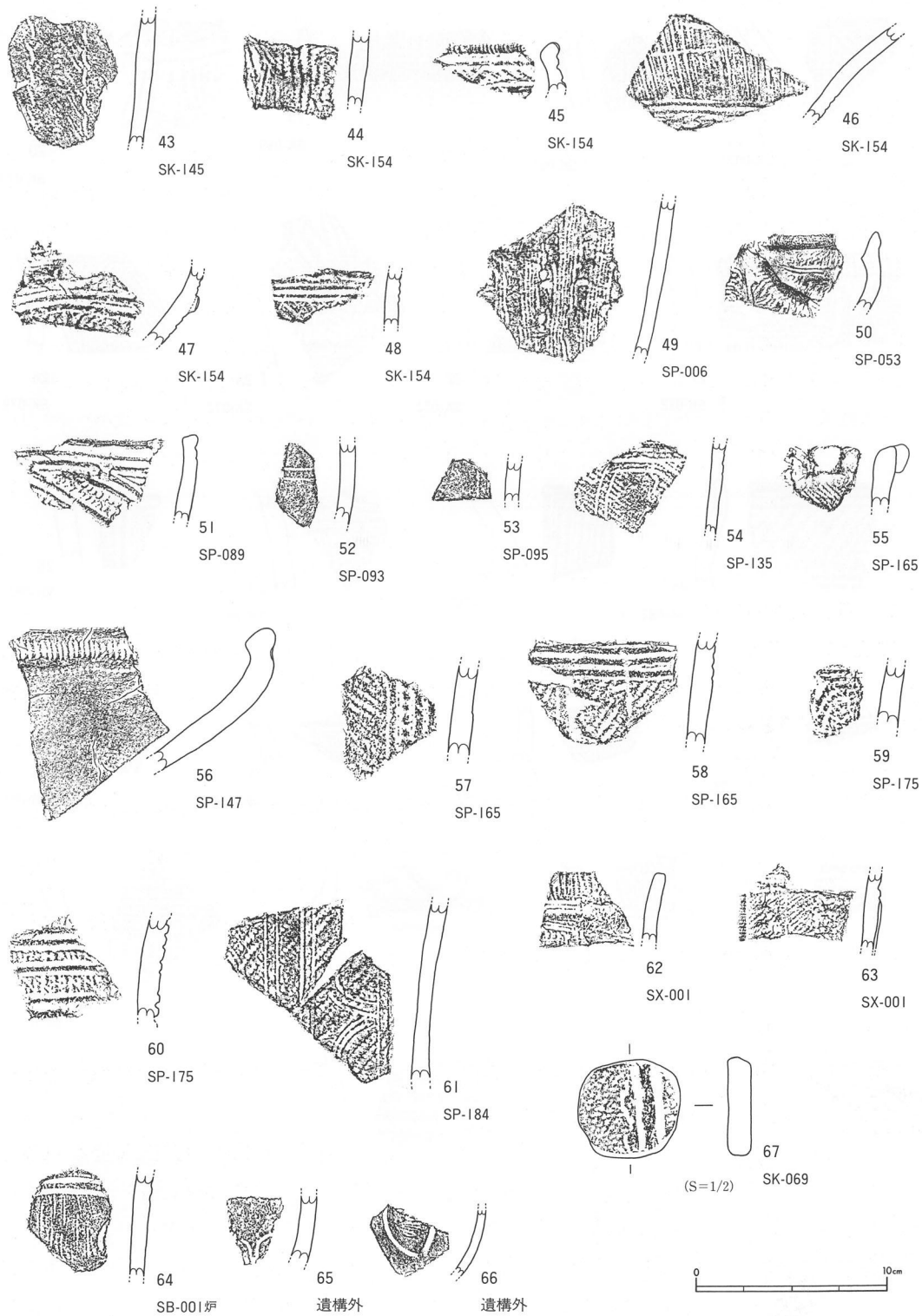
第8図 出土石器実測図(1)



第9図 出土石器実測図(2)・出土土器拓影(1)



第10图 出土土器拓影(2)



第 11 図 出土土器拓影 (3)

松本市林山越遺跡、同向畑遺跡出土の資料がある。

外来系 拓49・64には撚糸文が見られ北陸系の土器と考えられる。特に拓49は、胎土が明らかに在地の土器と異なり搬入品と見てもよいのではないかと思われる。また拓7も北陸的要素が見られる。

③ 縄文時代中期中葉

第6図1は、口縁部に隆帯によって区画された中を蓮華文によって充填する文様が見られ、胴部の横走する隆帯までの間にはパネル文も見られる。それ以下には指頭圧痕文が多用されており、器形の上部は北陸的要素、下部は東信地方の斜行沈線文土器の要素によって装飾された土器と言えよう。15の口縁部の特殊な突起、29に見られる区画文脇の貼付文も斜行沈線文土器であろう。2は縄文が施文された上に連鎖状隆帯の見られるもので、3は同一個体かと思われるが指頭圧痕文も見られる。松本平で僅かに見られる資料であるが新道式期と思われる。17は口縁が4単位の波状口縁となり、口縁端部を肥厚させ胴部に全面縄文施文されているが藤内II式になるとと思われる。拓40は平出III類Aの胴部破片と思われるが明確な時期は分からない。その他として、連続角押文がみられる20・22・24・拓19は猪沢式、押引爪形文の見られる新道式の23・25・26、藤内式の6・7・18・19、拓21～23、井戸尻式の11・12があるが特筆すべきものはない。

④ 縄文時代中期後葉

曾利I式の27、曾利II式の8、曾利IV式の13が該当するのみで、量は少ない。

⑤ 縄文時代後期

甕被墓のSK-031より出土した5と、遺構外から出土した磨消縄文が見られる拓66がある。5は口縁部に2単位の突起があるのみで文様も見られないため時期を決定していないが、後期を中心に甕被墓が見られることからこの時期とした。

⑥ 弥生時代後期

30のみで、内外面とも丁寧なミガキが施され外面の一部に朱が認められる。箱清水式だろう。

II 石器 (第8、9図)

石鏃3点、石錐1点、石匙1点、打製石斧6点、磨製石斧4点、小型磨製石斧3点、凹石2点が出土した。第8図3の石鏃には柄に固定するために使われたと思われる付着物が認められた。

3 ま と め

今回の調査は280㎡という小規模な調査であったが、住居址1、土壙・ピットあわせて378基が発見され、まさしく足の踏み場もないという状況だった。

SK-031の甕被墓は山形村では初めての発見であるのに加え、松本平を見ても塩尻市御堂垣外遺跡、波田町葦原遺跡、明科町北村遺跡等に類例が求められるだけで貴重な発見であった。調査で一番多く発見された縄文時代中期初頭の土器に関しては、撚糸文のついた北陸系の搬入品と考えられる土器片や、大歳山式という畿内系の土器片が発見され、当時から山向こうの人々と交流が行われたことを裏付ける資料であり興味深い。また在地の土器に関しても、松本平で多く発見される資料ではなく今後この時期の研究を進めるのに不可欠な資料だと思われる。これに続く時期の資料としてSK-007から発見された土器(第6図1)があるが、上半が北陸系、下半が東信の斜行沈線文土器系であり、同一器面上に両要素

が表現されたあまり類例のないものと思われる。

淀の内遺跡は今まで縄文時代中期中葉から後葉の資料が大半を占めていたが、今回は中期初頭の土壌群が発見され、今後の調査によって遺跡のどの場所に当該時期の住居址が発見されるのか非常に興味深い。また、調査前の段階で推測されていた環状集落の北側の発見と集落構造の解明は、今後の調査における課題である。

中町立道西遺跡 第1次調査試掘

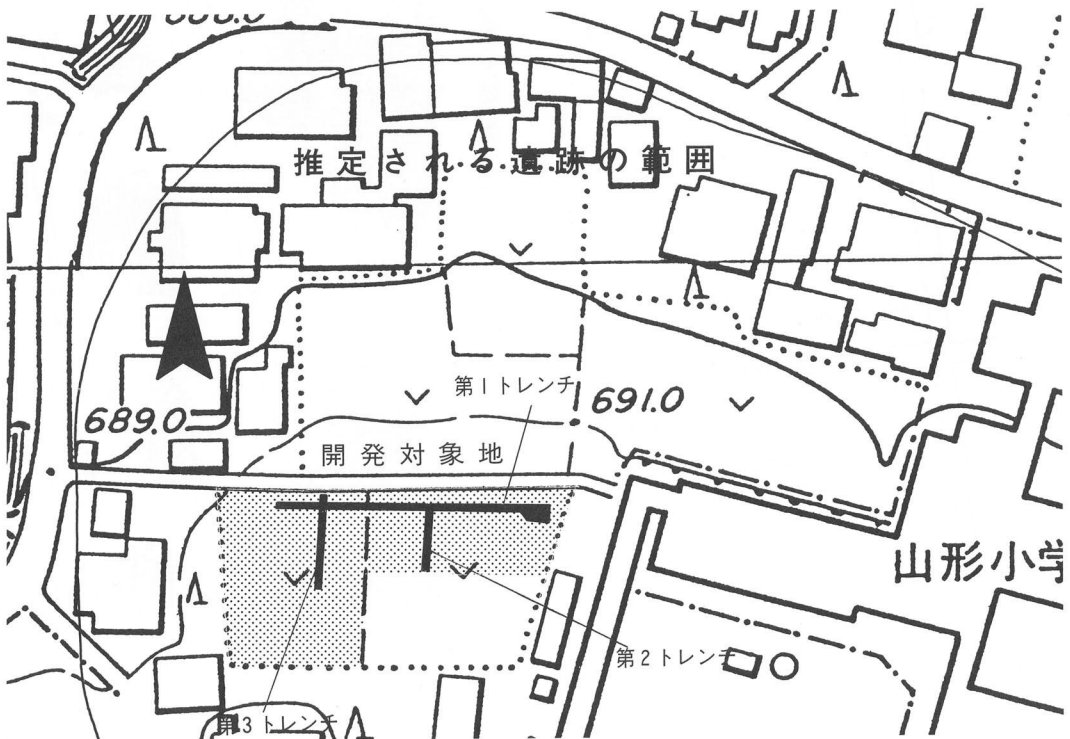
対象地	長野県東筑摩郡山形村3834-7他16筆
調査期間	平成9年8月25日～平成9年8月29日
開発対象面積	1,278m ²
発掘面積	42m ²
調査原因	民間宅地開発4区画及びこれに伴う進入路の設置

1 はじめに

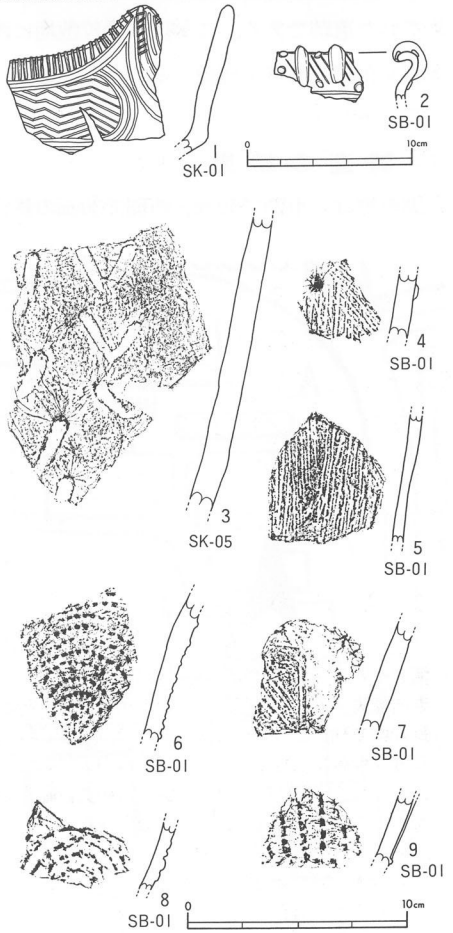
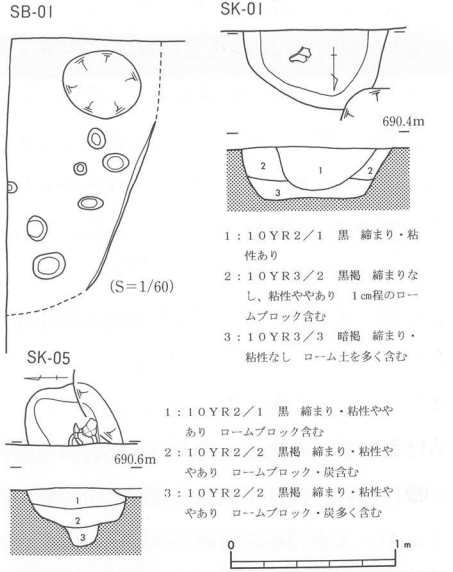
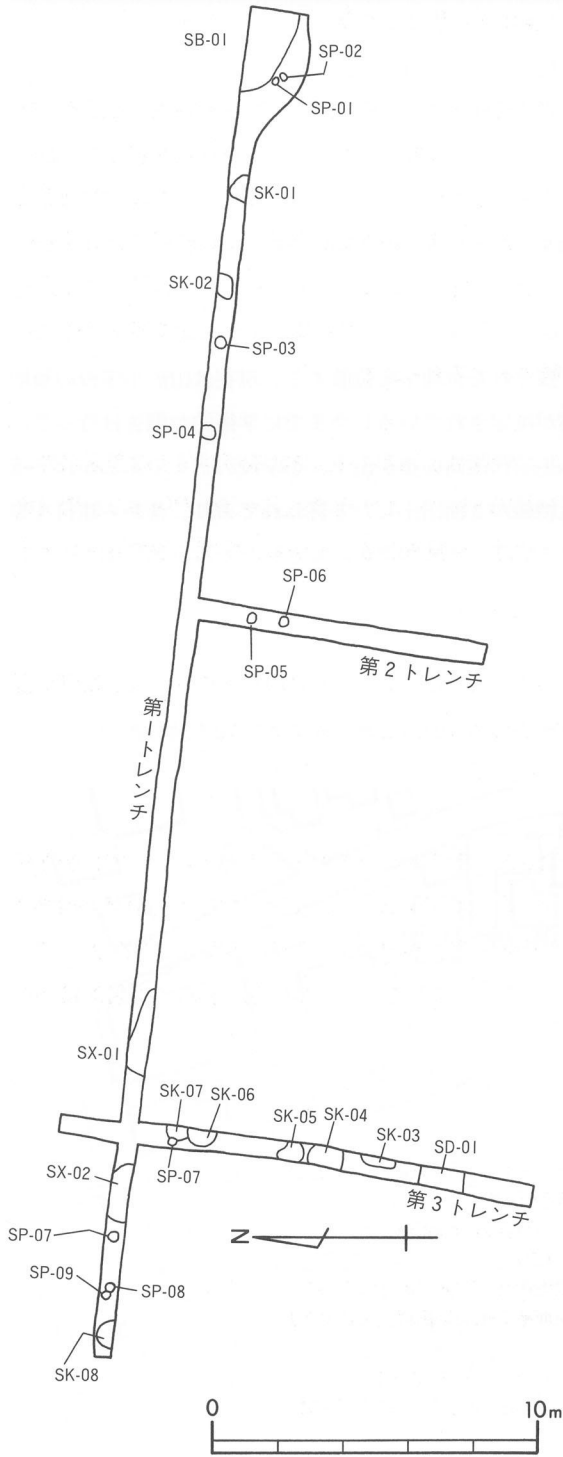
中町立道西遺跡は三間沢川と鳴音川の間に取り残された台地上に位置する。現在は山形小学校の敷地がほぼ覆い、西は下大池公民館に至る範囲に遺跡が推定されている。今までに学術的な調査は行っていないが、大正13年に山形小学校校舎建築のとき弥生時代後期の甕が出土、小学校のどこであるかは不確かだが弥生時代中期の壺が出土、この付近から八稜鏡が3面出土したと言われており、昔から注目を集めていた遺跡である。この度小学校敷地に西接する場所で宅地開発が計画されたため、試掘調査を行い埋蔵文化財の有無を確認することとした。

2 調査の結果

調査地は、東側で50cm、西側で30cmの耕作土を除去するとローム層に至るが、調査地の西端には一部



第12図 中町立道西遺跡位置図 (S=1/1,000)



第13図 調査区全体図・遺構図・土器実測図・拓影

ローム混じりの黄褐色砂礫層が見られ、ローム堆積後に鳴音川が作りだした扇状地砂礫層の堆積が一部及んだものと考えられる。調査は東西方向に第1トレンチ、南北方向に第2・3トレンチと計3本設け実施した。竪穴式住居址1、土壇10、ピット9、溝址1が検出された。

① SB-01

第1トレンチの東端で検出された。住居址はかなり削平されており、最も残存状況が良い場所でも壁高7cmしかなかった。床はロームを掘り込みそのまま床面としているが踏み締められた痕跡もなく軟弱であった。南側を拡張したが炉址は検出されず、ピットは7基検出されたが、最も深いもので20cm程度である。覆土中から縄文時代前期末の土器（第13図2・4～9）が出土した。2は口縁部に貝殻状貼付文が見られる諸磯C式の土器である。4・5・7は集合条線が施文され、4にはボタン状貼付文も見られる。6・8は集合条線の上に結節浮線文が渦巻状に配され、9は集合条線の上に結節浮線文が棒状に貼付されている。これらの特徴から下島式期に帰属すると考えられる。

② SK-01

第1トレンチの東側、SB-01の2m西に位置する。東西88cm、深さ31cmを計るが南側は調査区域外におよぶ。覆土は3層に分けることができたが、底から15cm程浮いた状況で縄文時代中期初頭の土器（第13図1）が出土した。口縁端部にソーメン状の細い貼付文が見られることから、中期初頭でも古い要素をもつ土器である。

③ SK-05

第3トレンチの中央に位置する。南北で58cm、深さ34cmを計るが、西側は調査区域外に及び南側は攪乱されている。覆土中から縄文時代中期末曾利V式の土器（第13図3）が出土した。

3 ま と め

今回の試掘調査では調査区の全域から遺構が検出され、第1トレンチ東側と第3トレンチでは密な状況であった。第1トレンチ東端では縄文時代前期末の住居址が検出され、山形村では下竹田唐沢遺跡につぐ発見であり、また第3トレンチでは少量ながら中世の遺物が出土する遺構（SX-01、SK-06・07・08、SD-01）が検出された。よって試掘調査の結果、宅地開発にあたっては埋蔵文化財の保護対策が必要であると判断された。

—参 考 文 献—

- 赤塩仁・三上徹也 1994 「下島式・晴ヶ峯式の再提唱とその意義」『中部高地の考古学IV』
- 縄文セミナーの会 1987 『第8回縄文セミナー 中期初頭の諸様相』
- 寺内隆夫 1996 「斜行沈線文を多用する土器群の研究」『長野県の考古学』
- 長野県史刊行会 1988 『長野県史 考古資料編』全一卷（四）
- 長野県埋蔵文化財センター 1987 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1』
- 長野県埋蔵文化財センター 1988 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書2』
- 松本市教育委員会 1989 『松本市向畑遺跡II』
- 三上徹也 1987 「梨久保式土器 再考」『長野県埋蔵文化財センター 紀要1』
- 山形村教育委員会 1971 『長野県東筑摩郡山形村唐沢・洞遺跡 緊急発掘調査報告書』
- 山形村教育委員会 1987 『殿村遺跡』
- 山形村教育委員会 1997 『淀の内遺跡』

洞遺跡 第3次調査（試掘）

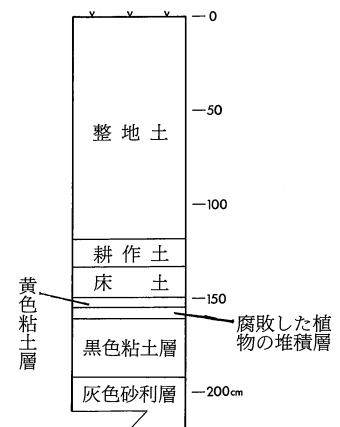
対象地	長野県東筑摩郡山形村23番地1・3
調査期間	平成9年10月13日・14日
開発対象面積	477m ²
発掘面積	25m ²
調査原因	個人宅地開発

1 はじめに

遺跡の南方200mの山麓沿いにある湧水から流れ出る小河川沿いに立地し、北方へ緩やかに傾斜している。昭和45年に行われた第1次調査では、縄文時代中期の住居址が21基、平安時代の住居址が4基、弥生時代の埋甕が発見され当時としては多大な成果を得た調査として知られている。また平成7年に第2次調査（試掘）が行われ、再度縄文時代中期の集落跡であることが確認されたが、両調査とも調査面積が小さく集落の構造を解明するにはいたっていない。

2 調査の概要とまとめ

開発対象地は元々水田であったが仮置きの土砂が1mほど堆積しており、トレンチを1本設定するにとどめた。この1mの堆積土を除去すると水田面が現れ、水田耕作土を除去すると水生植物が腐敗したと考えられる堆積が10cm程あり、その下には30cm程黒色粘土が堆積していた。水田になる前は湿地帯になっていたと考えられる。またその下には灰色の砂利層が堆積していたが、深さが2mに至ったため作業の安全を考えこれ以上の掘削を断念した。なお遺物の出土はなかった。以上から当地における埋蔵文化財保護対策は必要ないと判断された。



第15図 基本層序



第14図 洞遺跡第3次調査位置図 (S=1/2,500)

下耕地遺跡 第2次調査（試掘）

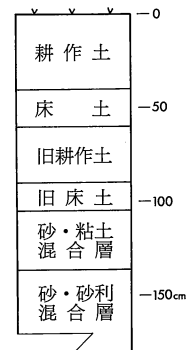
対 象 地	長野県東筑摩郡山形村482番地、484番地1
調 査 期 間	平成9年10月8日～平成9年10月13日
開発対象面積	2,103m ²
発掘面積	45m ²
調 査 原 因	民間宅地開発8区画

1 はじめに

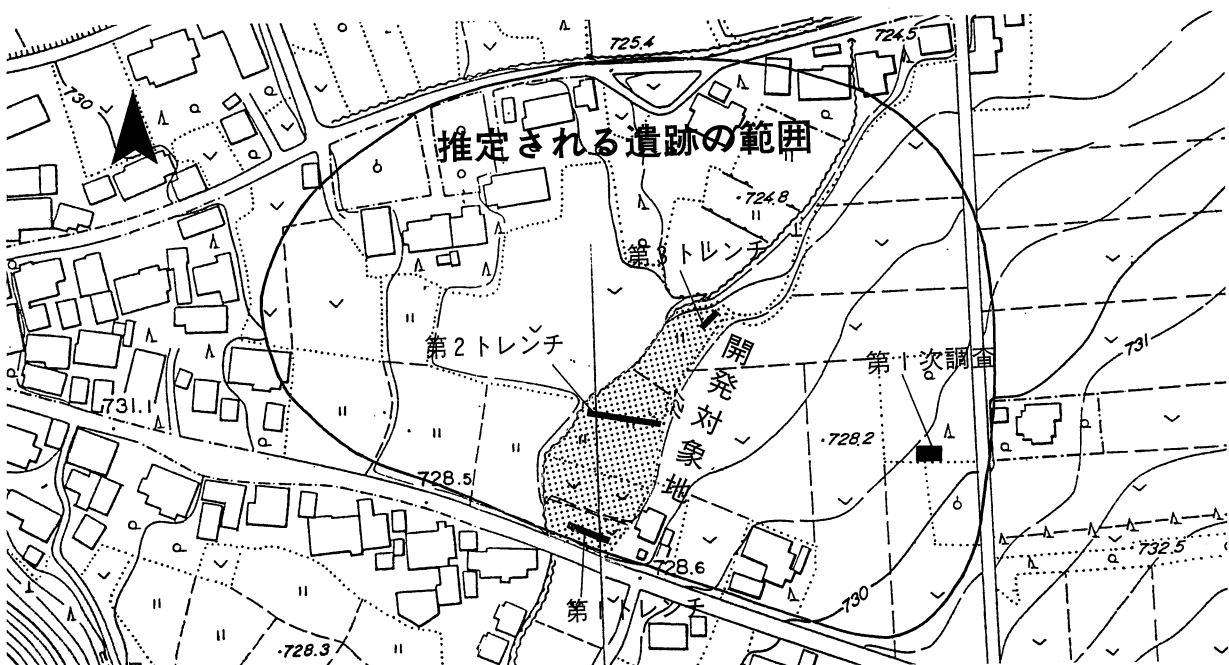
下耕地遺跡は、縄文時代中期の集落址が発見されている淀の内遺跡、洞遺跡に挟まれる位置にある。平成8年に小規模な第1次調査が実施され、縄文時代中期と平安時代の竪穴式住居址が各々1基ずつ検出されているが、遺跡の範囲・構造などは判明していない。

2 調査の概要とまとめ

開発対象地は、上大池区洞地籍から流れ出る小河川がつくりだした谷状地形内に位置し、現在も小さな農業用水が対象地に西接する位置を流れている。試掘調査前から集落址の検出は予想されなかったが、水辺利用の痕跡が見られないかを念頭に調査を進めた。対象地は現地表面から1m迄は圃場整備前と後の耕作土が堆積しているが、それ以下は砂や砂利層が見られ河道になった様子が伺えた。この砂利層中には、上流の洞遺跡から流れ込んだと思われる遺物が見られた。以上から、宅地開発における埋蔵文化財への影響は甚だ軽微と判断されたため埋蔵文化財保護対策は求めなかった。



第17図 基本層序



第16図 下耕地遺跡第2次調査位置図 (S=1/2,500)

調査前全景 (北から)



遺構検出状況 (北東から)



遺構検出状況 (南西から)



図版2 淀の内遺跡第2次調査 (2)



SB-001 (北から)



SP-100 (西から)



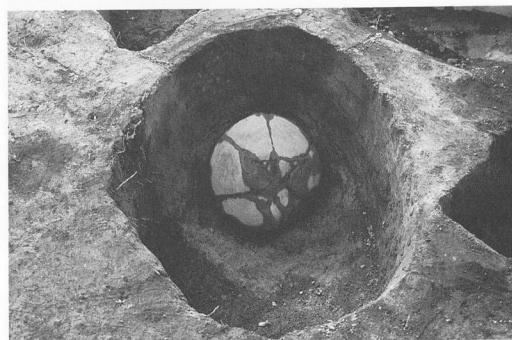
SK-007 (西から)



SP-073 (東から)



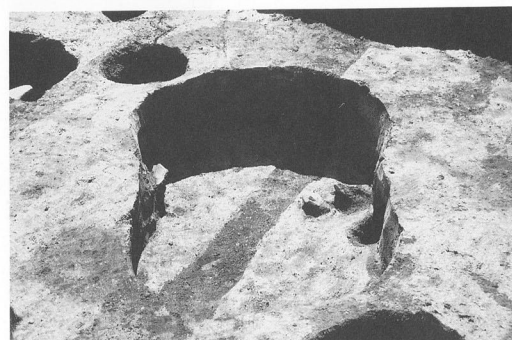
SP-064 (西から)



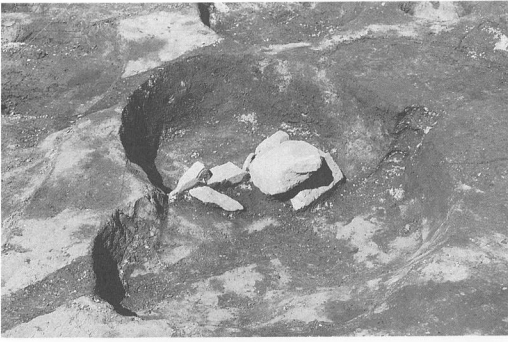
SK-031 (東から)



SK-150 (西から)



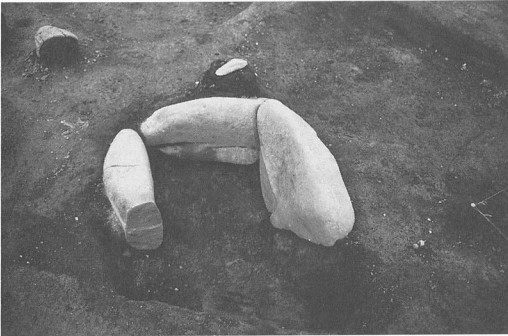
SK-107 (東から)



SK-022 (東から)



SP-165 (西から)



SB-001 炉 (東から)



SK-145 (東から)



SK-028 (南から)



SK-011 (西から)

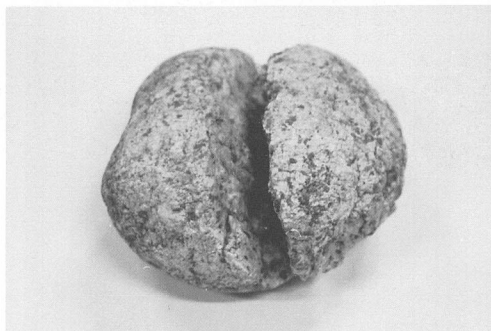
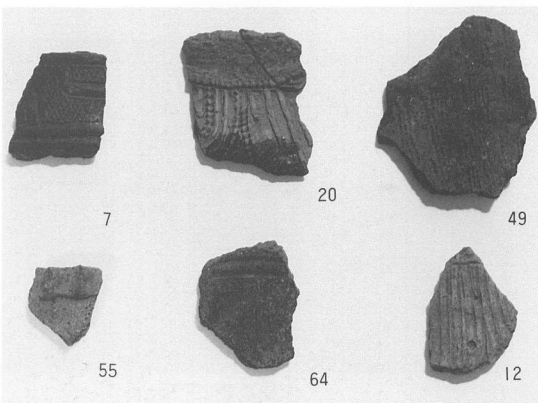
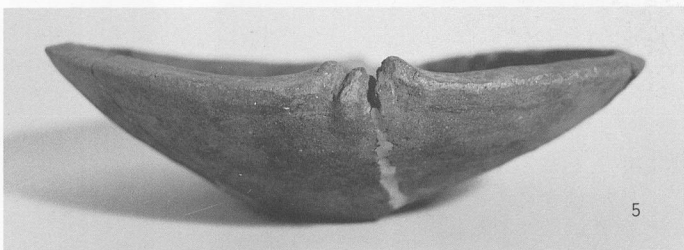


完掘 (北東から)



作業風景

図版4 淀の内遺跡第2次調査 出土遺物



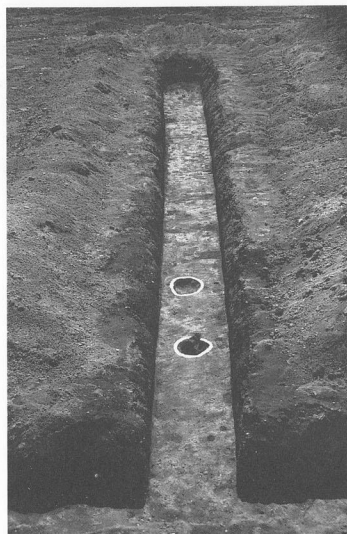
SK-150出土 磨石接合資料



調査前全景 (西から)



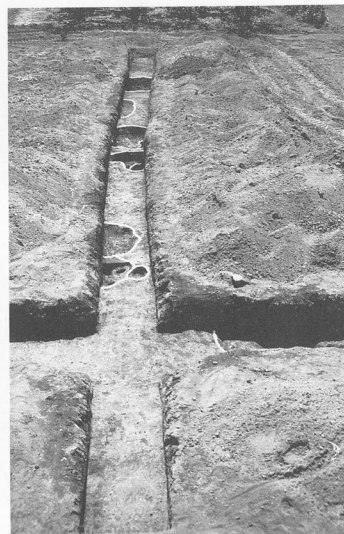
SB-01 (西から)



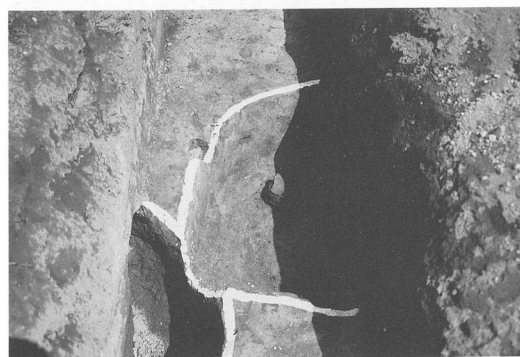
第1トレンチ (西から)



第2トレンチ (北から)



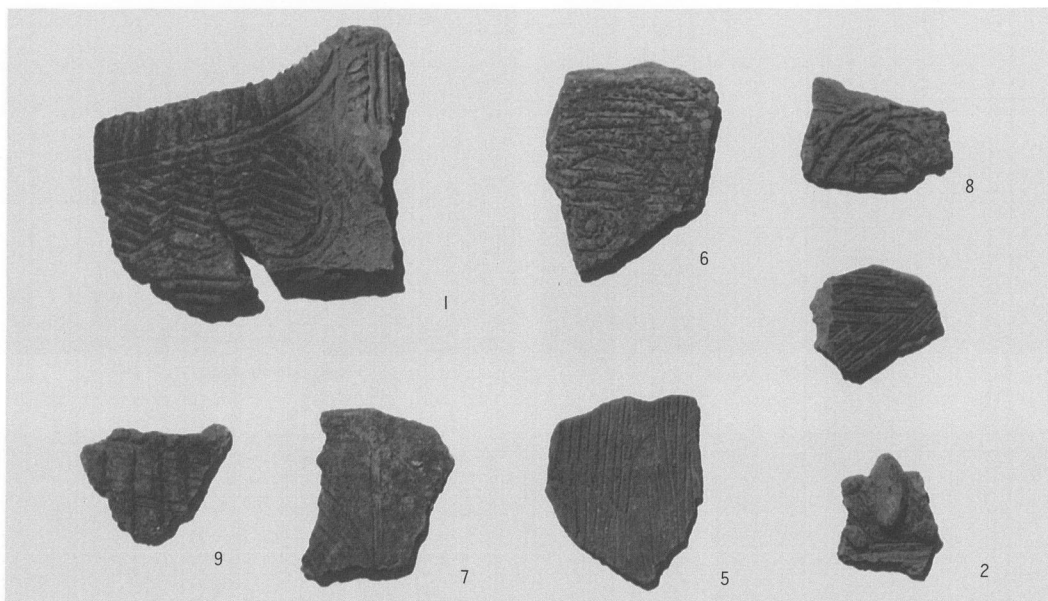
第3トレンチ (北から)



SK-01 (西から)

SK-04 (北から)





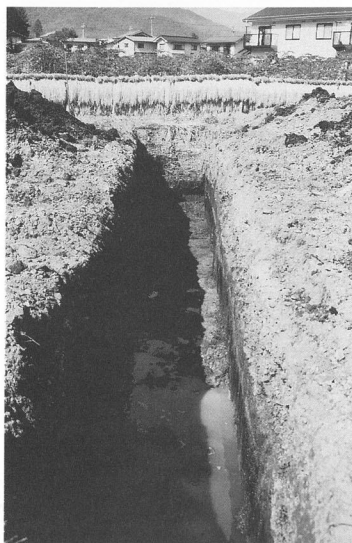
中町立道西遺跡出土土器



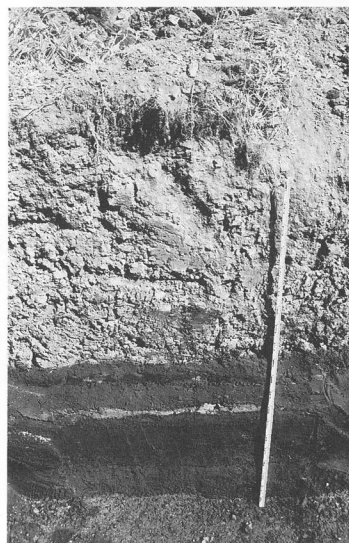
下耕地2次 全 景 (北から)



洞3次 調査前全景 (南から)



洞3次
トレンチ全景 (西から)



洞3次
基本層序

報告書抄録

ふりがな	やまがたむらまいぞうふんかざいちょうさねんぼう（へいせい9ねんどこっこほじょじぎょう）								
書名	山形村埋蔵文化財調査年報（平成9年度 国庫補助事業）								
副書名									
巻次									
シリーズ名									
シリーズ番号									
編著者名	和田 和哉								
編集機関	山形村教育委員会								
所在地	〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村2040-1 Tel0263-98-3155								
発行年月日	1998年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
よどのうち 淀の内	ながのけん 長野県 ひがしちくまぐん 東筑摩郡 やまがたむら 山形村	468番地1	204501	3	137° 52′ 43″	36° 9′ 4″	970901 ～ 971008	280㎡	個人宅地 開発に伴う 記録保存
なかもち ちみちにし 中町立道西		3834番地7 他16筆		15	137° 52′ 35″	36° 9′ 54″	970825 ～ 970829	42㎡	民間 宅地開発 に伴う試掘
ほら 洞		23番地1 23番地2		2	137° 52′ 39″	36° 8′ 52″	971013 ～ 971014	25㎡	個人 宅地開発 に伴う試掘
しもこうち 下耕地		482番地 484番地1		3	137° 52′ 40″	36° 8′ 55″	971008 ～ 971013	45㎡	民間 宅地開発 に伴う試掘
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
淀の内	集落址	縄文中期	竪穴式住居址 1 土壌 157 ピット 221	縄文中期初頭の土器 縄文後期甕被墓の浅鉢	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文中期初頭土器の出土 ・北陸系搬入品や畿内系（大歳山式）出土 ・甕被墓の検出 				
中町立道西	集落址	縄文前期末 中世	竪穴式住居址 1 土壌 10	縄文前期末土器	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文前期末（下島式）の住居址検出 				
洞	集落址	縄文中期							
下耕地	集落址	縄文中期							

山形村埋蔵文化財調査年報

（平成9年度 国庫補助事業）

平成10年3月25日 印刷

平成10年3月31日 発行

編集・発行 山形村教育委員会

印刷・製本 もえぎ企画書籍